

日本保険薬局協会 管理薬剤師アンケート報告書

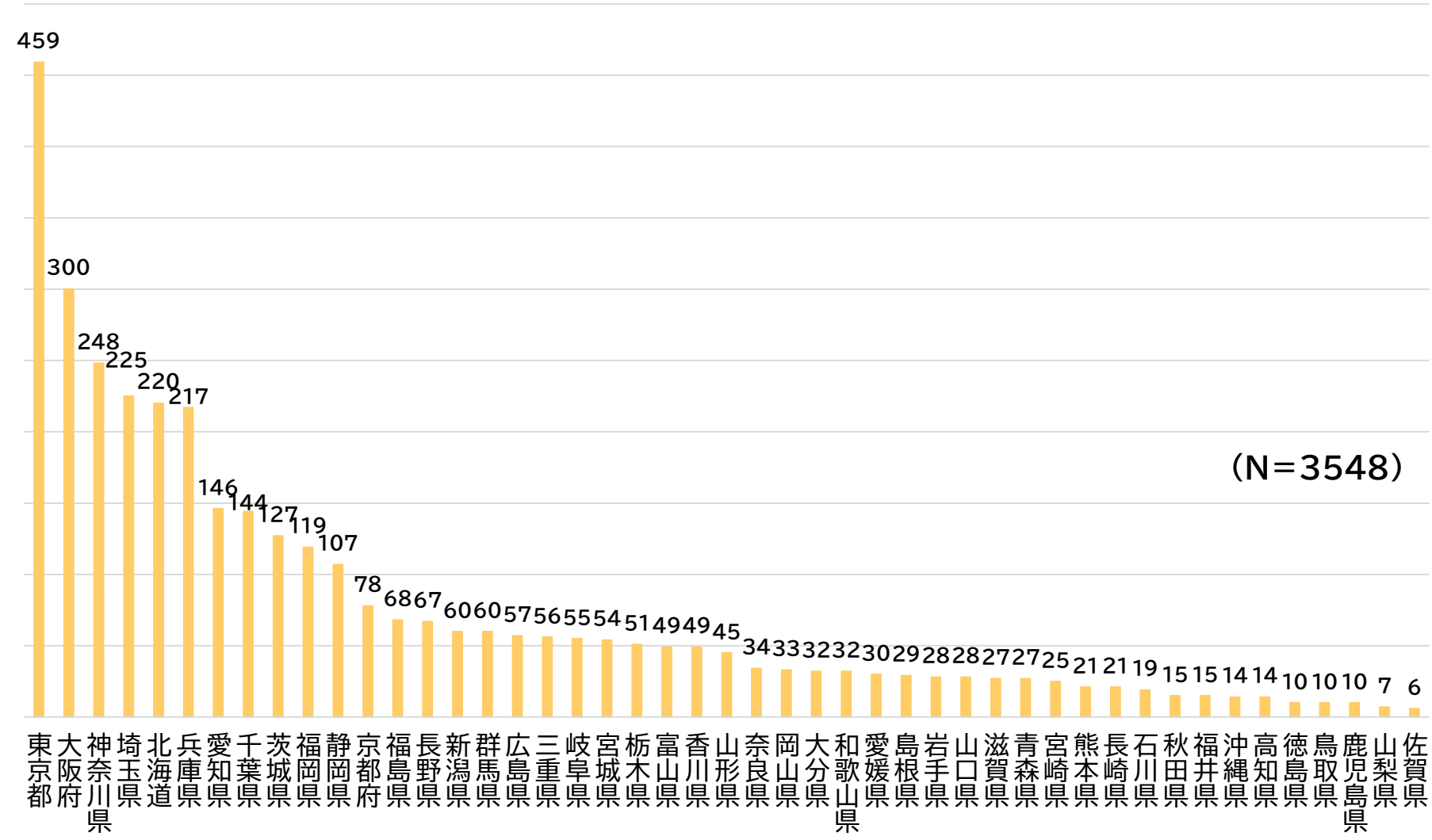
2022年9月8日

一般社団法人 日本保険薬局協会

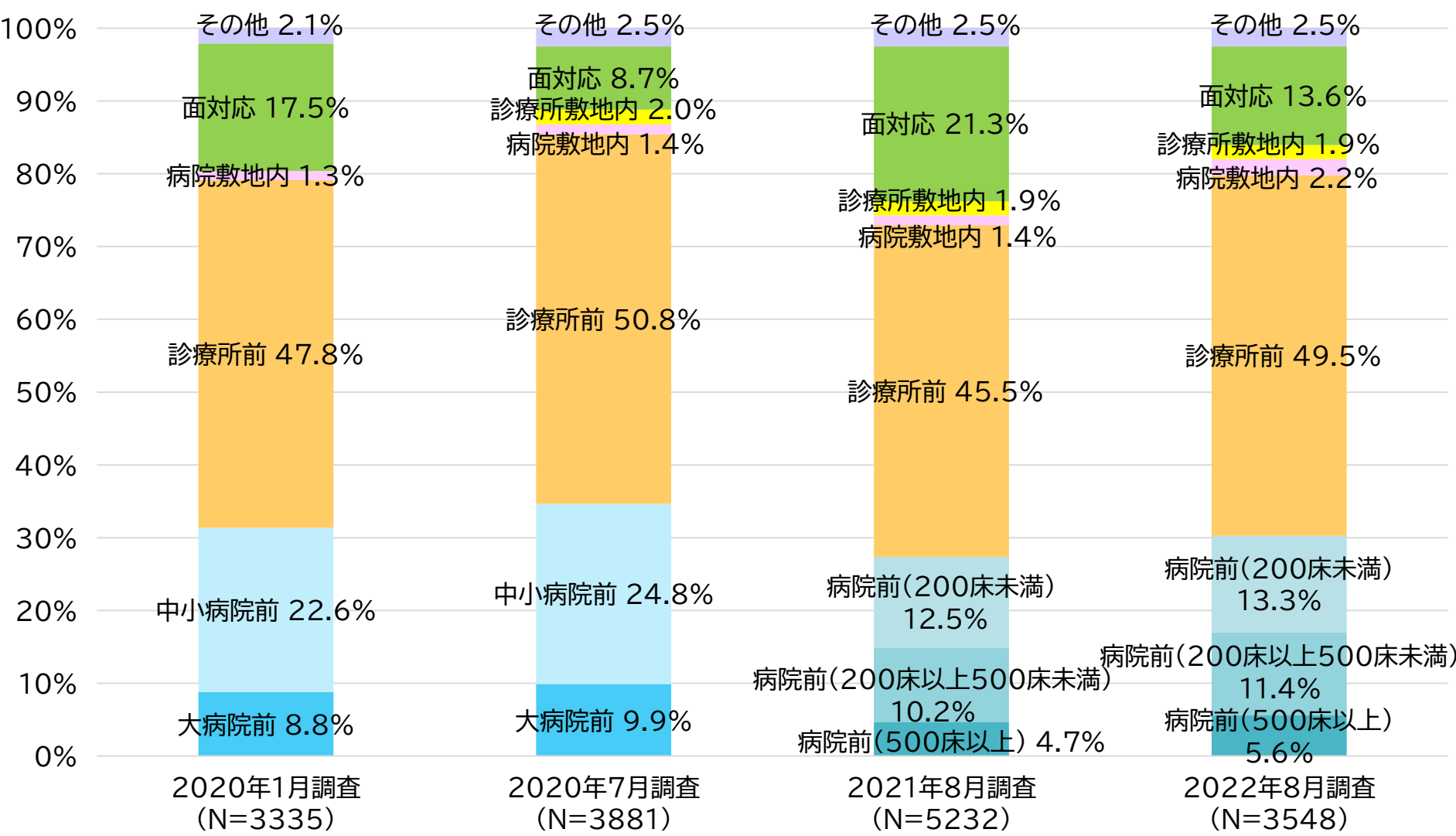
医薬品流通・OTC検討委員会・薬局機能創造委員会

■実施主体	一般社団法人 日本保険薬局協会 医薬品流通・OTC検討委員会・薬局機能創造委員会
■実施目的	今後の協会の発展を支える保険薬局全般 に関する情報源の確立
■アンケート対象	日本保険薬局協会会員薬局 管理薬剤師
■アンケート方法	オンラインWEB調査
■アンケート実施期間	2022年7月27日～2022年8月24日
■アンケート案内方法	正会員の協会担当者にメールの配信
■アンケート回答数	3,548薬局

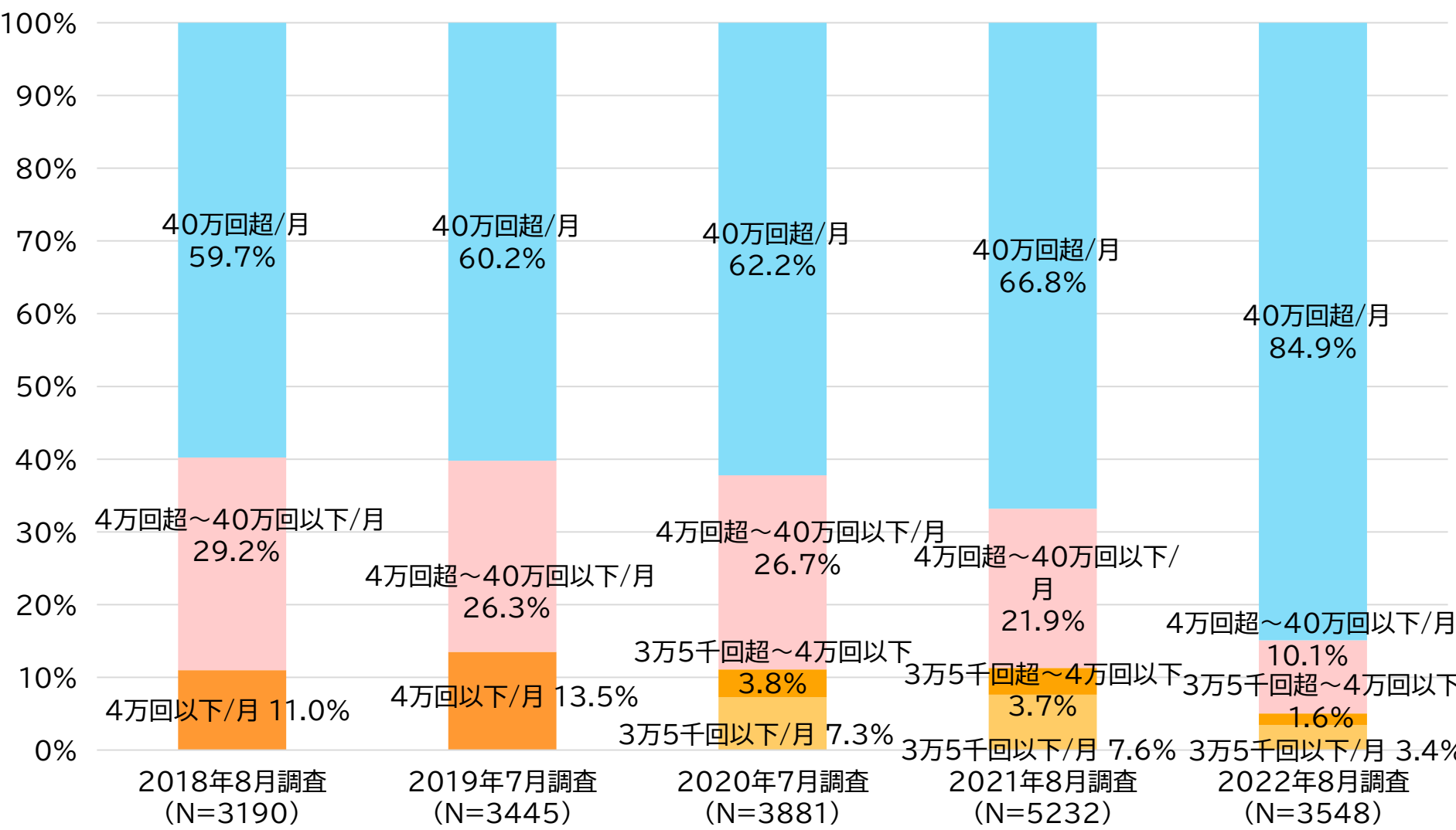
◆回答薬局都道府県別一覽



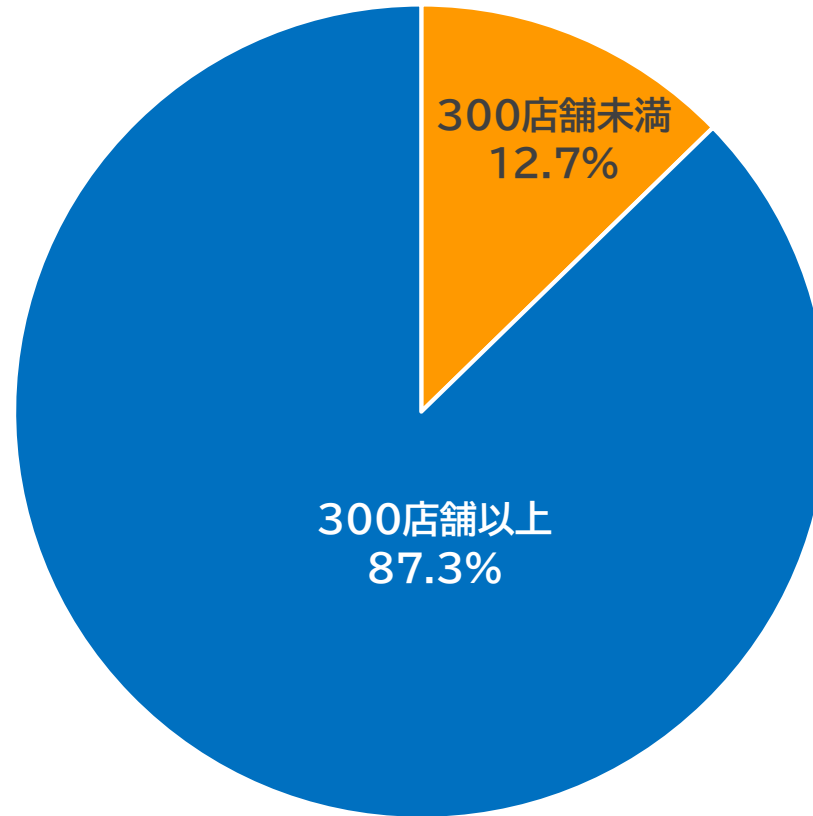
◆立地形態について



◆薬局グループ全体の処方箋受付回数

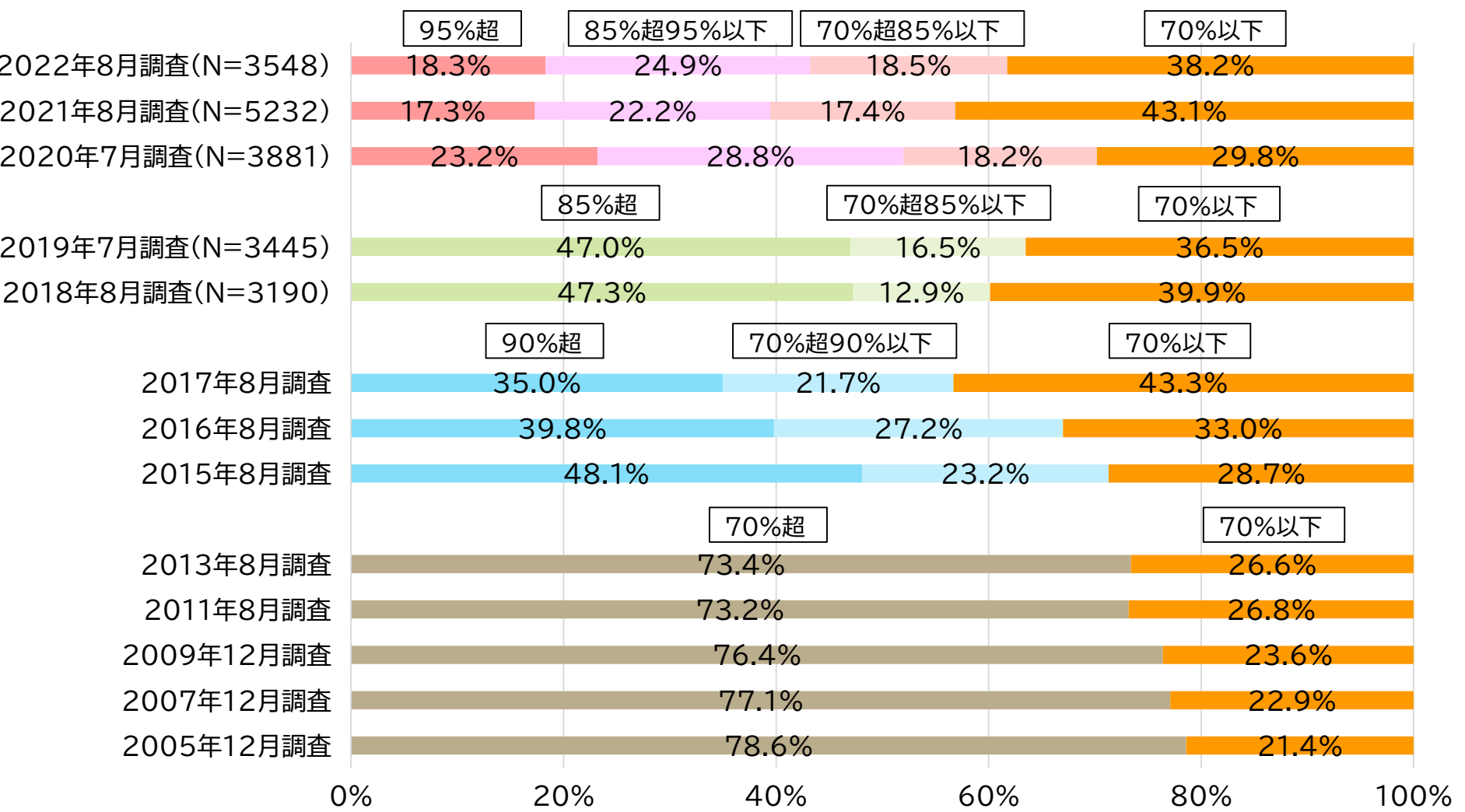


◆薬局グループ全体の薬局数

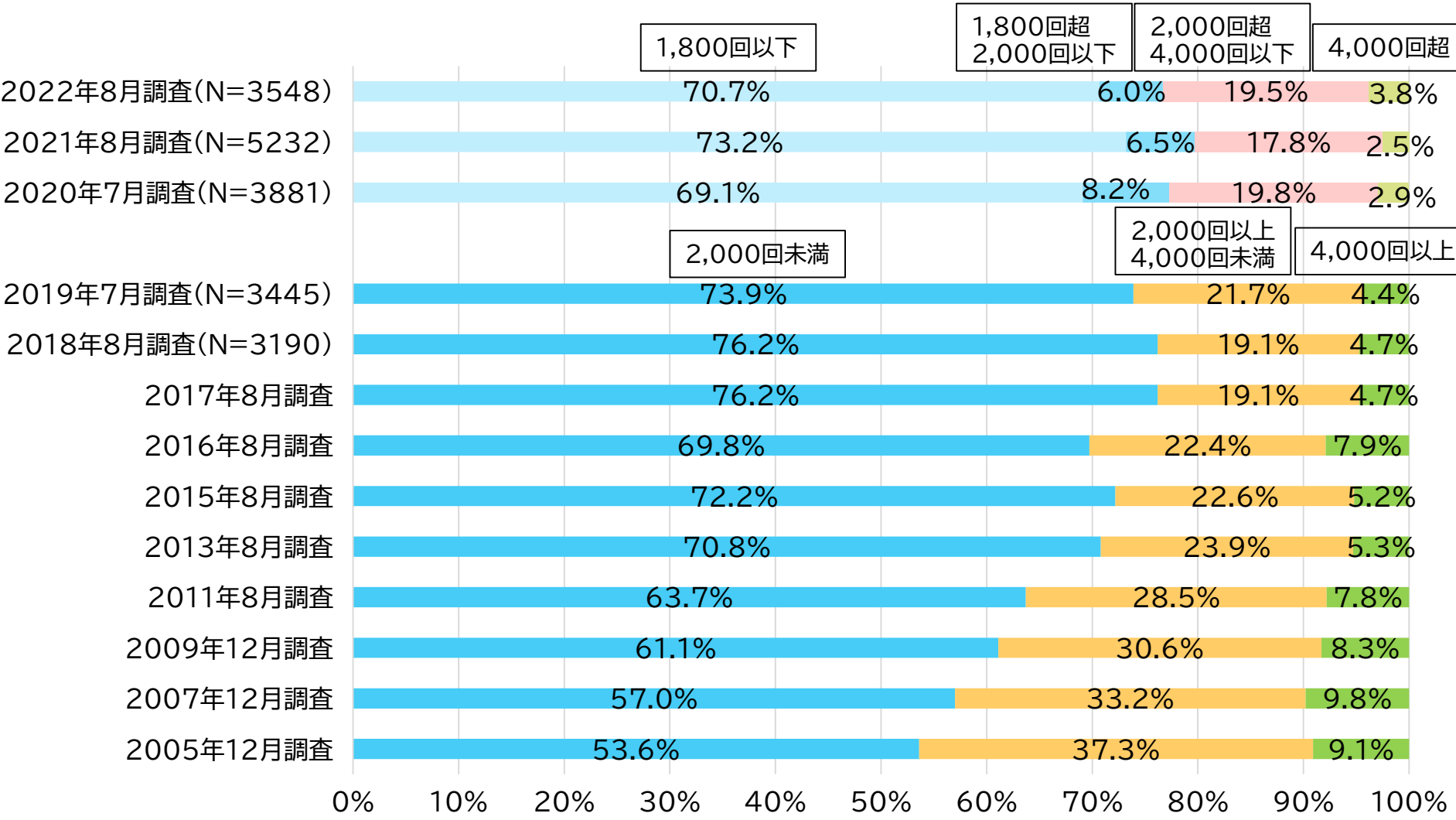


N=3548

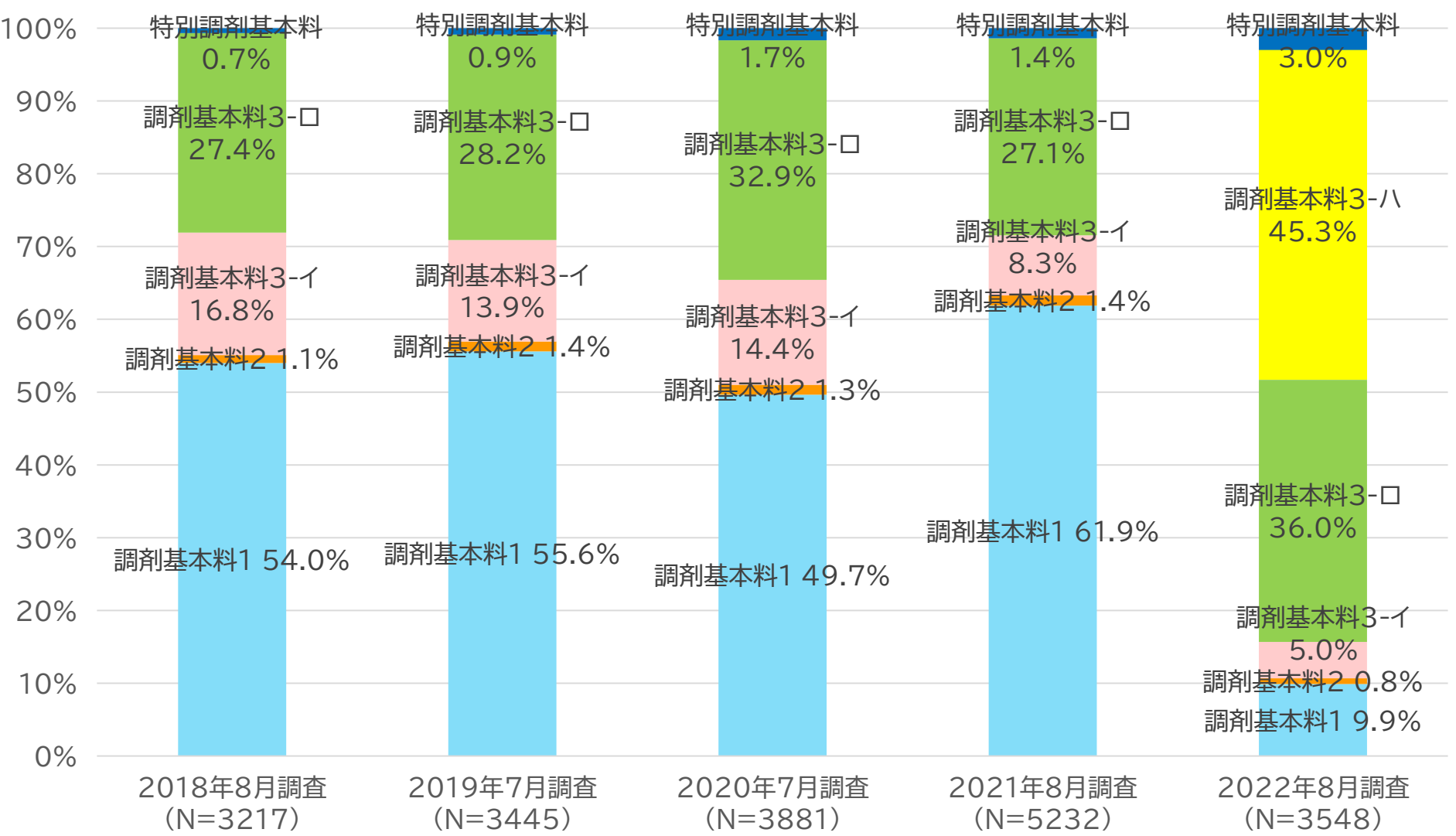
◆処方箋集中度



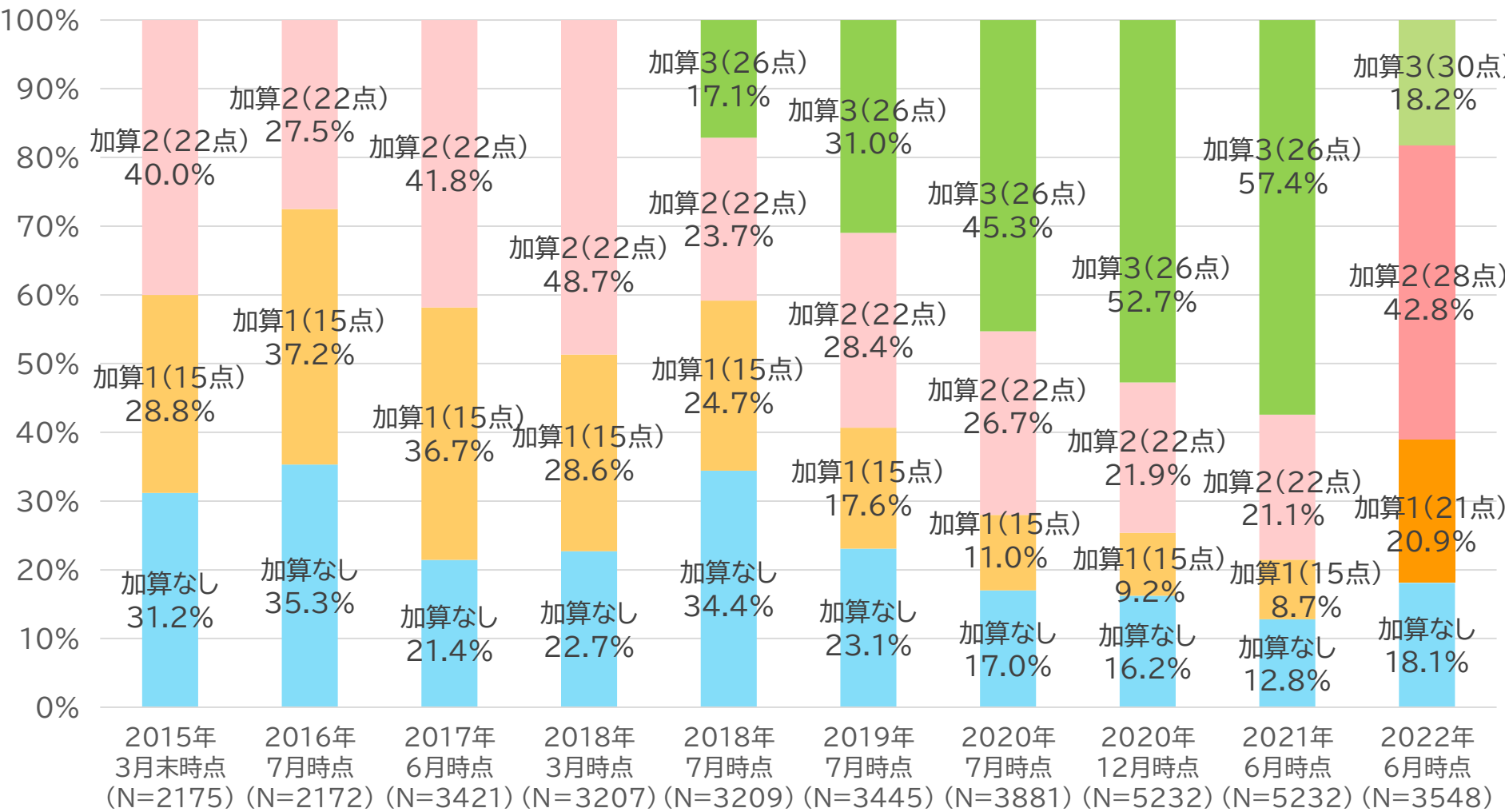
◆月間平均処方箋受付回数(2022年4月～6月)



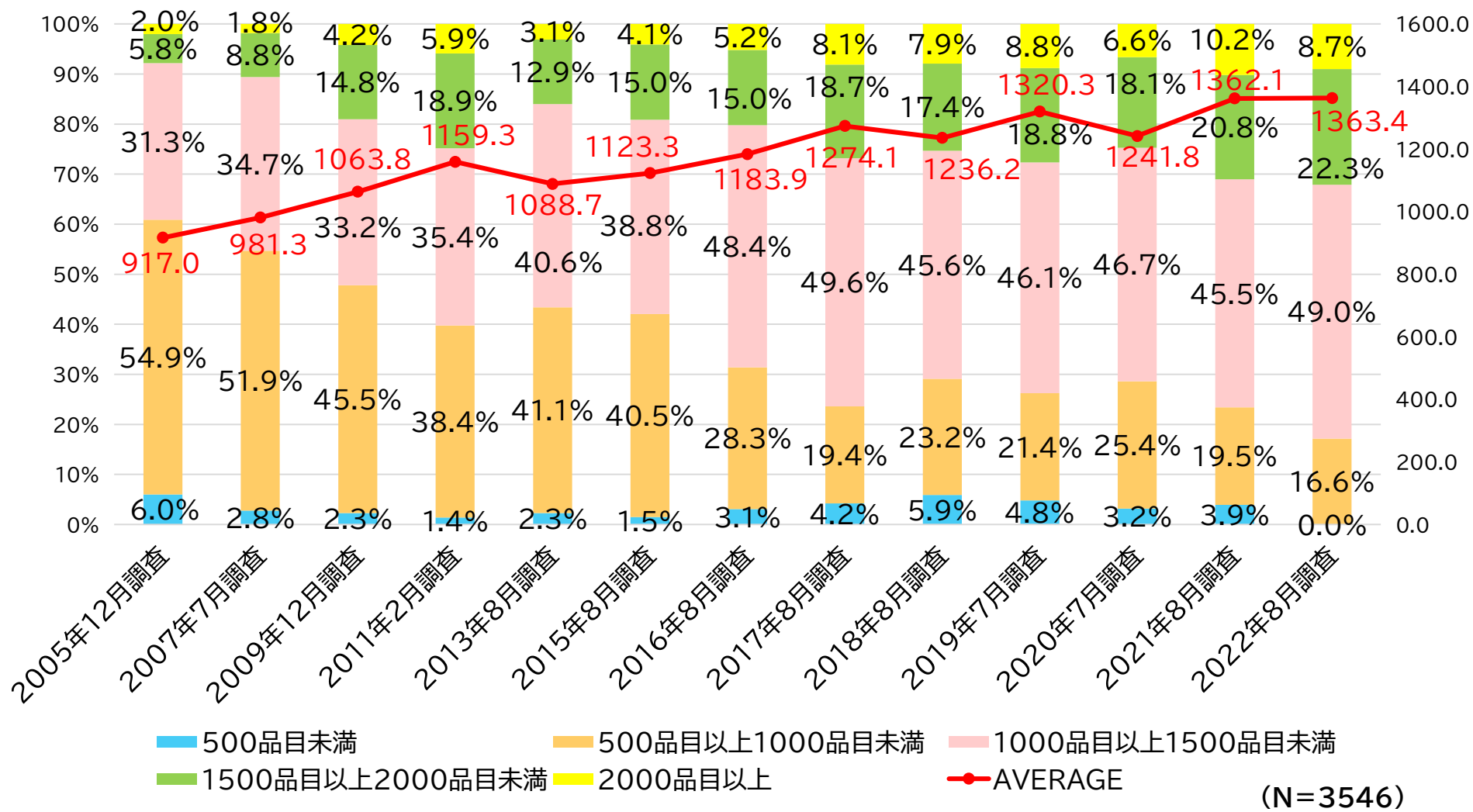
◆調剤基本料について



◆後発医薬品調剤体制加算(6月時点)

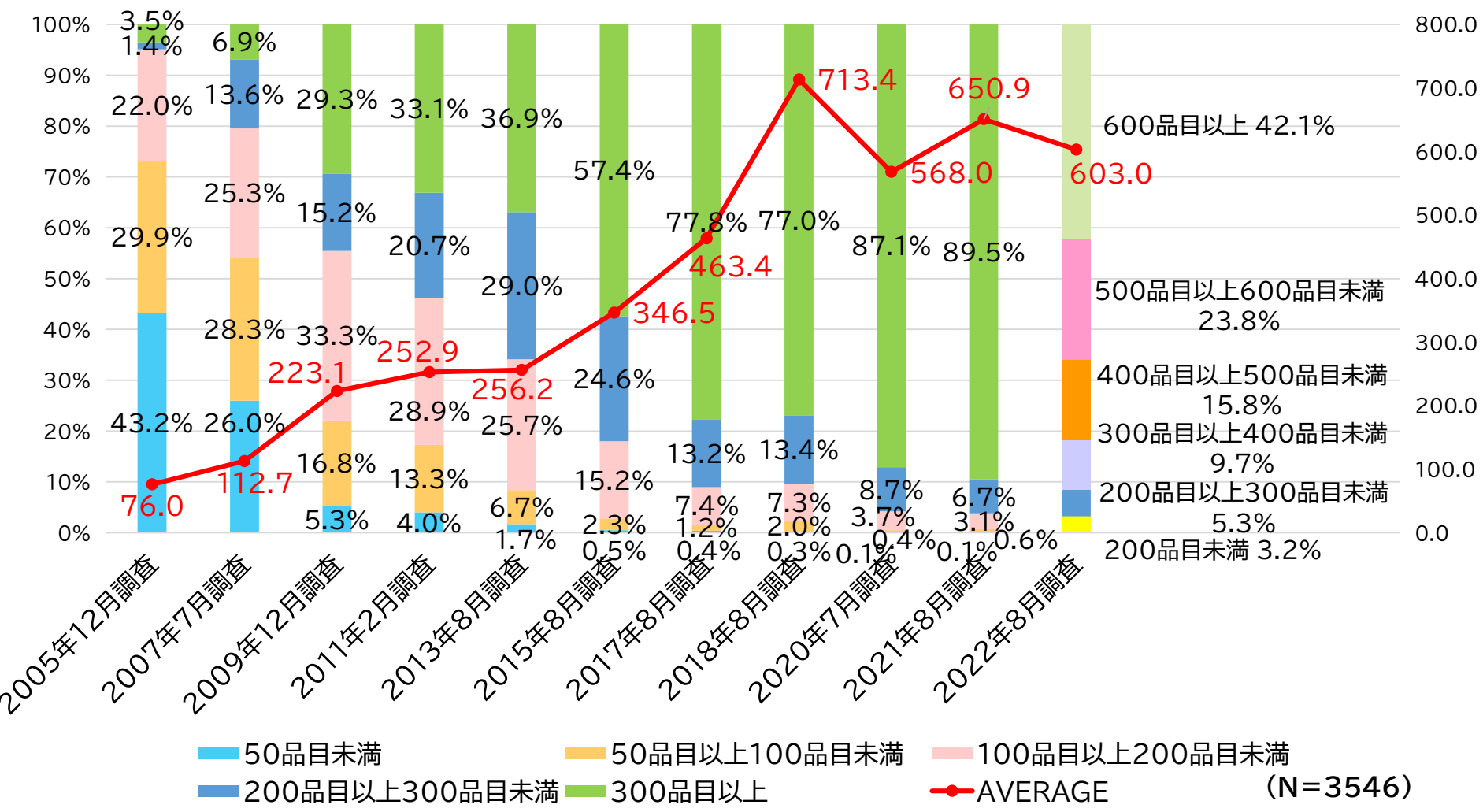


◆在庫している全医療用医薬品の総品目数

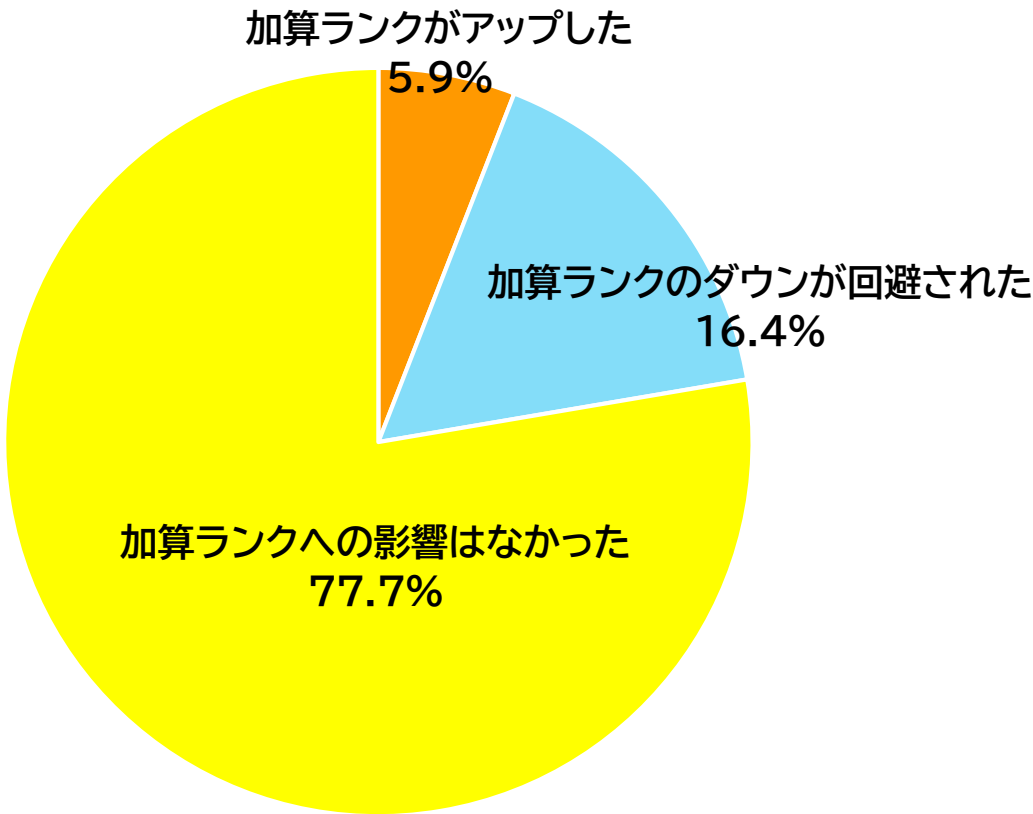


(N=3546)

◆在庫している後発医薬品の品目数



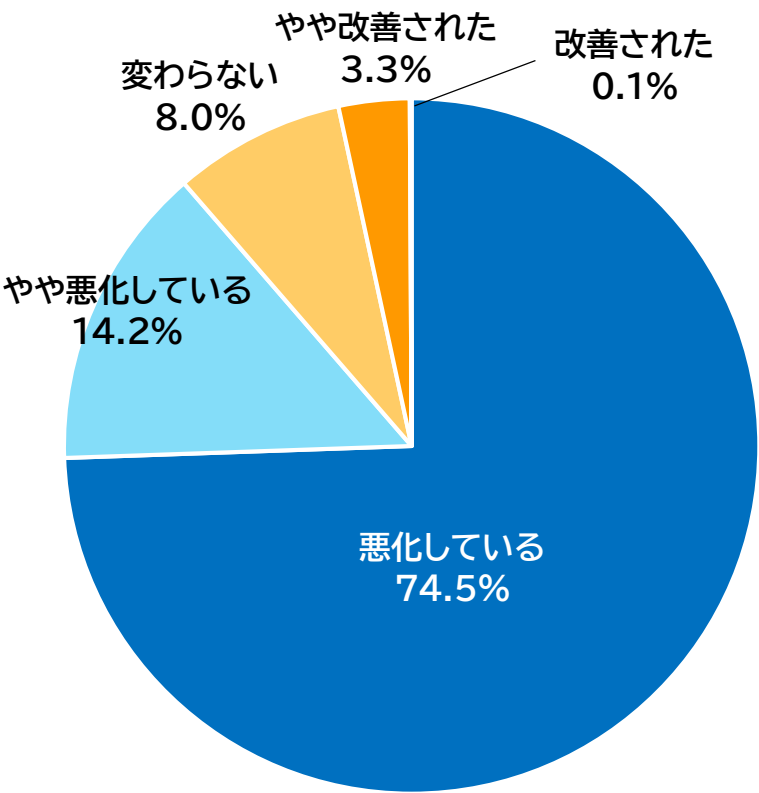
後発医薬品の出荷停止等を踏まえた診療報酬上の臨時的な取扱い(令和4年3月4日事務連絡通知)による
後発医薬品調剤体制加算へ影響について



N=3548

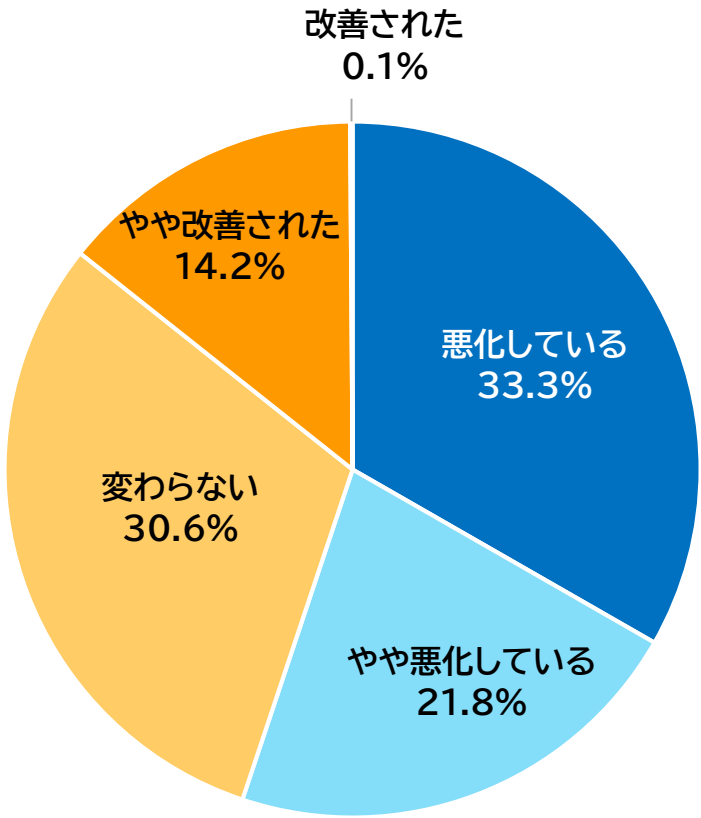
◆2022年1月時点と比較した現在の後発医薬品の流通状況

2021年6月時点と2022年1月時点の比較



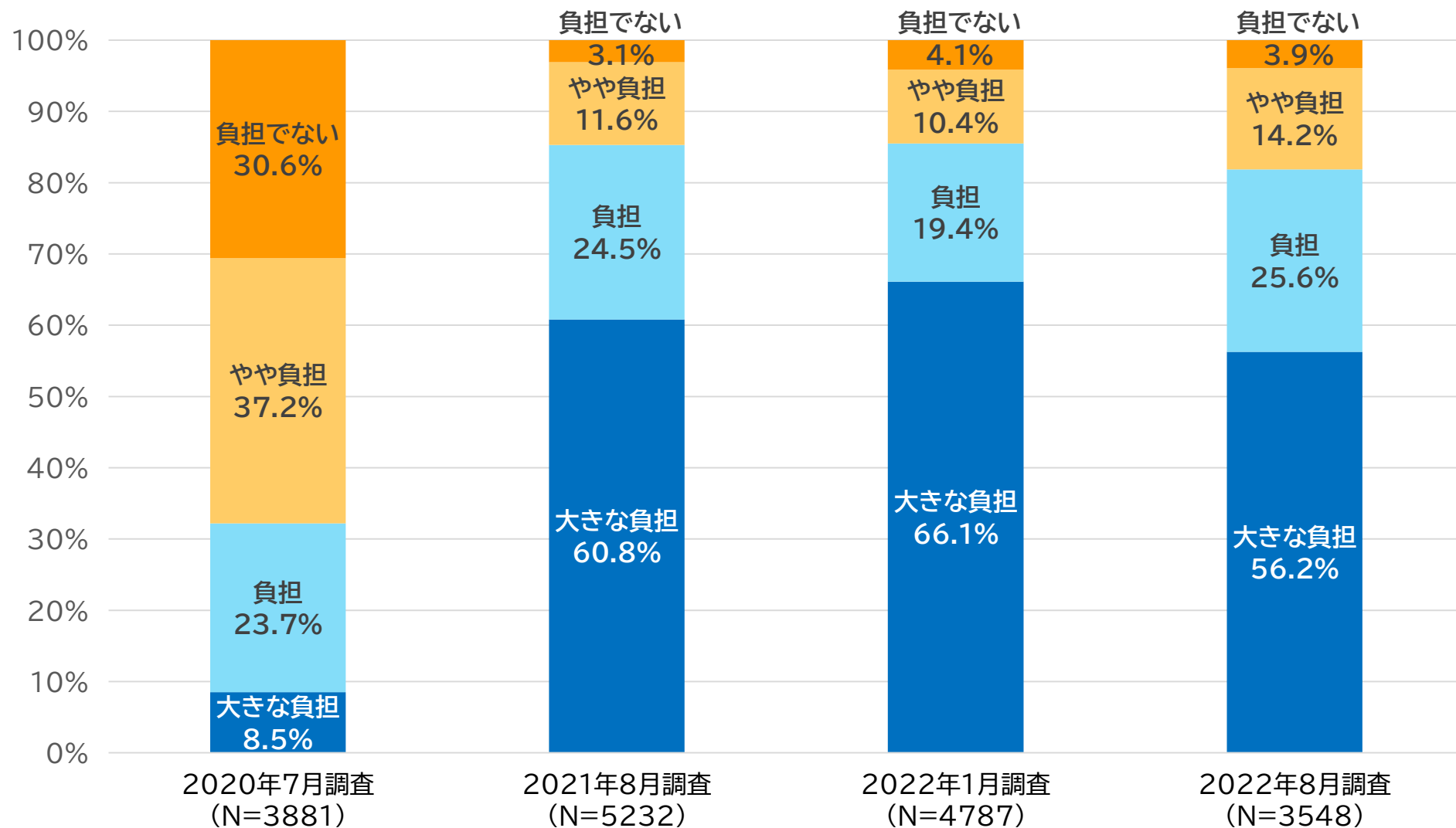
(N=4787)

2022年1月時点と現在の比較



(N=3548)

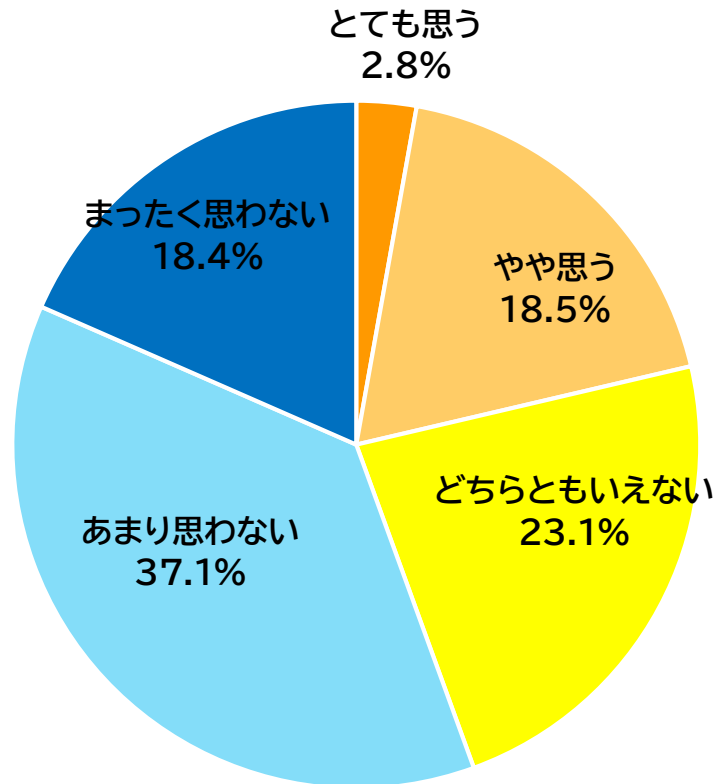
◆後発医薬品調剤割合を維持するための負担について



◆後発医薬品の流通状況に関する情報の開示・提供について

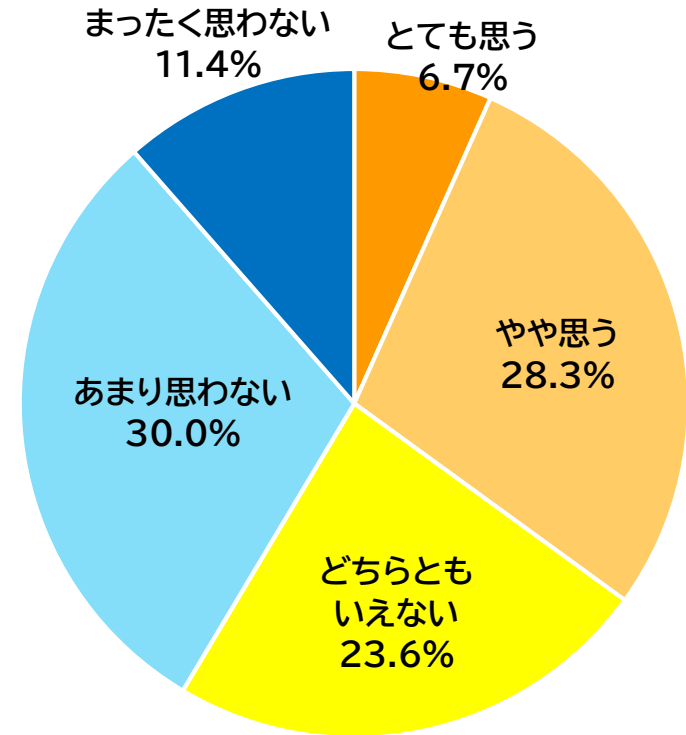
後発医薬品の流通状況に関する情報は、適時的確に開示・提供されていると思いますか？

メーカーからの情報の開示・提供



N=3548

卸からの情報の開示・提供

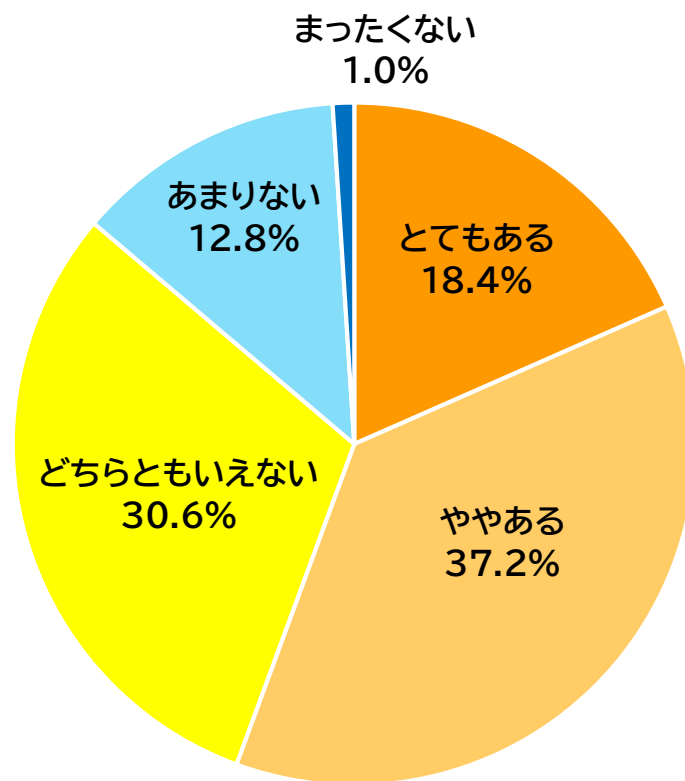


N=3548

◆後発医薬品の流通状況に関する情報と実情の乖離について

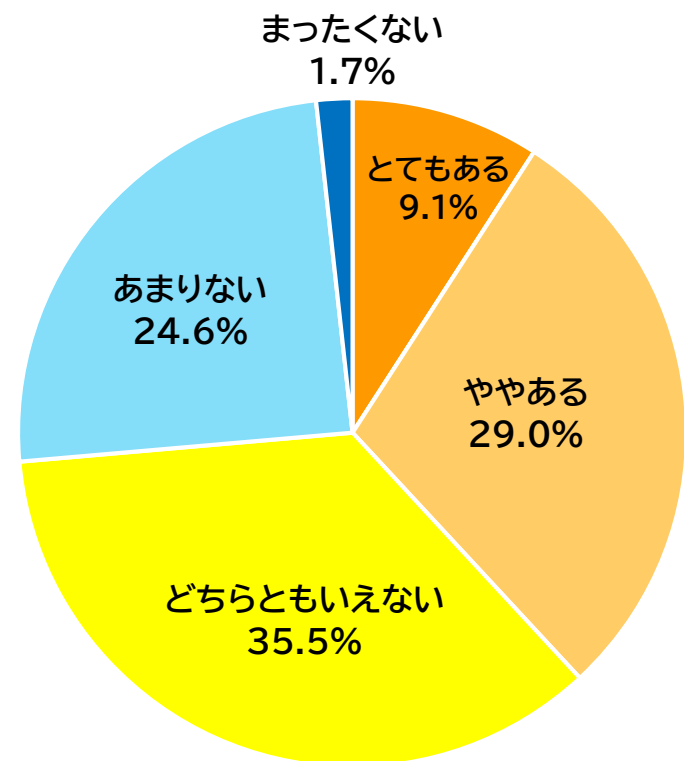
開示・提供されている後発医薬品の流通状況に関する情報と実情に乖離はありますか？

メーカーからの情報と流通状況との乖離



N=3548

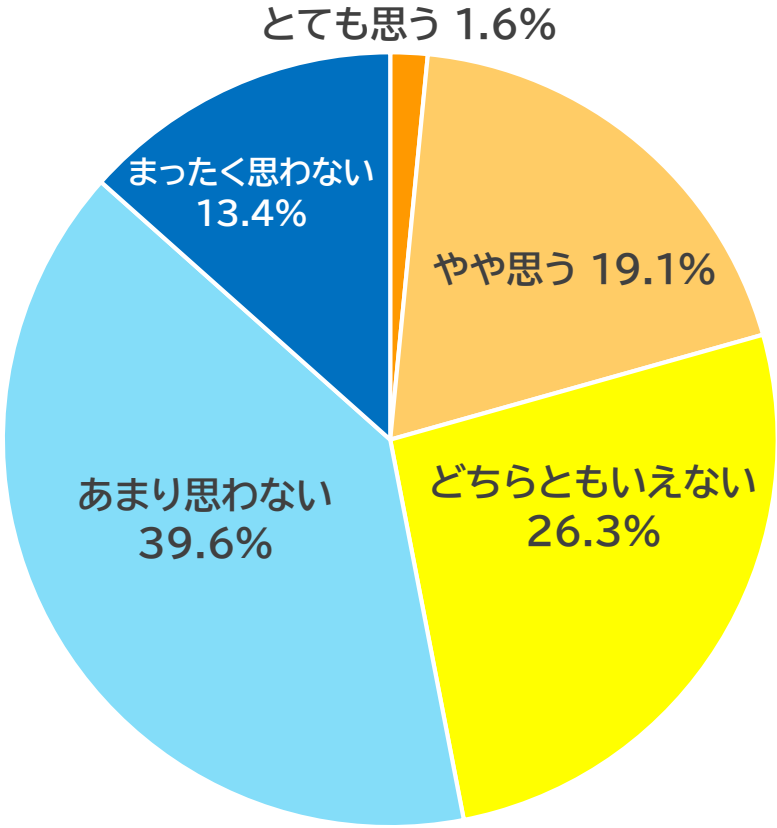
卸からの情報と流通状況との乖離



N=3548

◆後発医薬品の流通状況に関する情報入手について

後発医薬品の流通状況に関する情報は、適時的確に入手できていると思いますか？

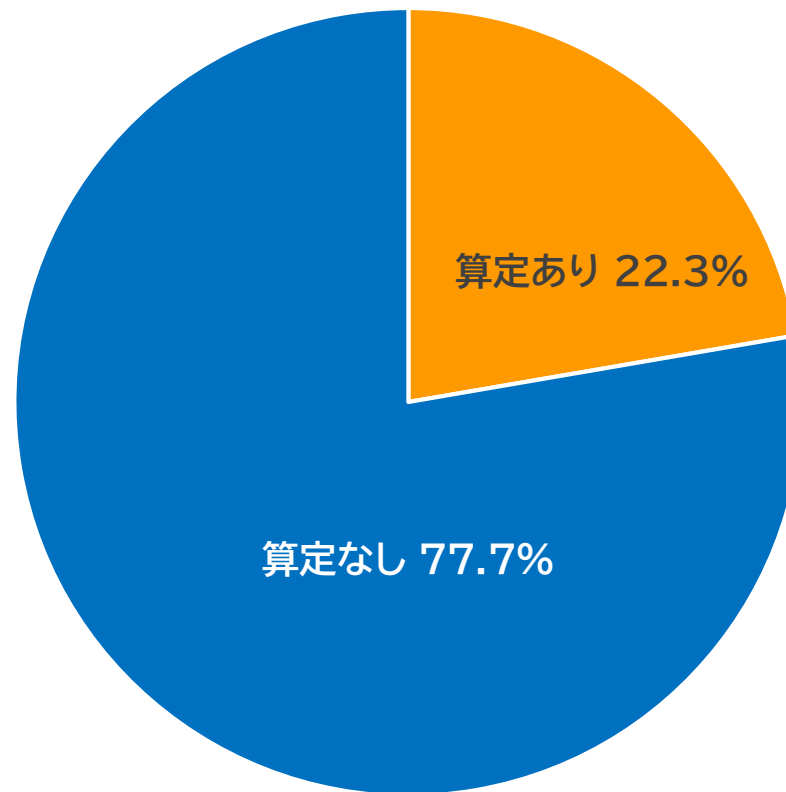


N=3548

◆後発医薬品メーカーの違反などに伴う自主回収や出荷調整について

- 出荷調整があまりにも多いため、薬剤の治療が困難になる患者さんもでてきています。また、出荷調整のためいろんなメーカーの後発品を在庫しなければならず、在庫の置き場もなくなってきている状況です。入庫困難のために対応する時間も多くなり、コロナの発熱外来と合わせて医療崩壊が懸念されます。
- 薬局も取り扱いメーカーがころころ変更し、在庫管理が煩雑になったが、患者も不安がる方が少ないがいる。その際の患者への説明に薬剤師が時間を割くため、待ち時間の増加につながっている。
- 薬局の運営に大きな障害となっている。また、今回の件については薬局が原因となっているものではないのだが、結果として患者さまからのクレームが薬局へと向かってしまっている。メーカーから患者様への説明がないというのが問題だと思う
- 在庫管理に右往左往する毎日に慣れてしまっているのが現状。対人業務と叫ばれる中、対物にかなり時間をとられ、患者様に説明するという悪循環と理解が得られない場合もあり、憤りを感じる。
- 安定して同じメーカーの後発品が入ってこないため毎回違うメーカーでお渡ししたりしています。薬の後発品を何社も在庫して過誤の原因にもなりそうで困ってます。
- 新規オープンのため実績がなく注文しても断られることが多いです。病院から強い要望があり、入庫できないときはどのように対応したらよいかわからないことがあります。薬が入庫できないことで普段でも繁忙であるのに業務に一層負担がかかっています。強い憤りを感じますし、ストレスになります。
- 医療費削減が叫ばれる中、また薬局にも後発品の使用率を上げるように指示がある中、その妨げとなるような不祥事には憤りを感じます。実際患者さんからメーカーを名指しで信用できないと言われたり、GEを敬遠する声が強くなりました。
- 変更がどうしてもできない薬もあり非常に苦労している。処方医に出荷規制のことが周知されていないこともあり、配慮頂けないことも多々あったので、まずは病院への周知を徹底していただきたい。
- 適切な医薬品を確保するのにかなりの時間を食う。またそれを理解していない医師からの風当たりが強く患者と医師との間に挟まれて大変。供給については国として、医師会から各医師への情報提供も必須だと思う。
- 流通の安定化はメーカーの義務であると認識している。何らかしらの罰則が必要ではないか。また、納品出来ませんだけでなく、こういった対応が適切であるのか等、対応方法についてもメーカー、卸協力のうえ、最善の検討を行ってうえで、情報伝達して欲しい。
- どこに薬を配分するか卸の裁量で決まってしまうため、出荷調整がかかる前から定期的に購入していた医薬品まで、全く入庫しなくなったりしているので、薬局の規模など優先順位をつけないでほしい。
- 後発品以外の薬剤も出荷調整になっている中で、購入実績がない薬局への納期がわからないと回答されることが多く、新規に受けた処方箋の薬剤が入手できないなどの問題がある。

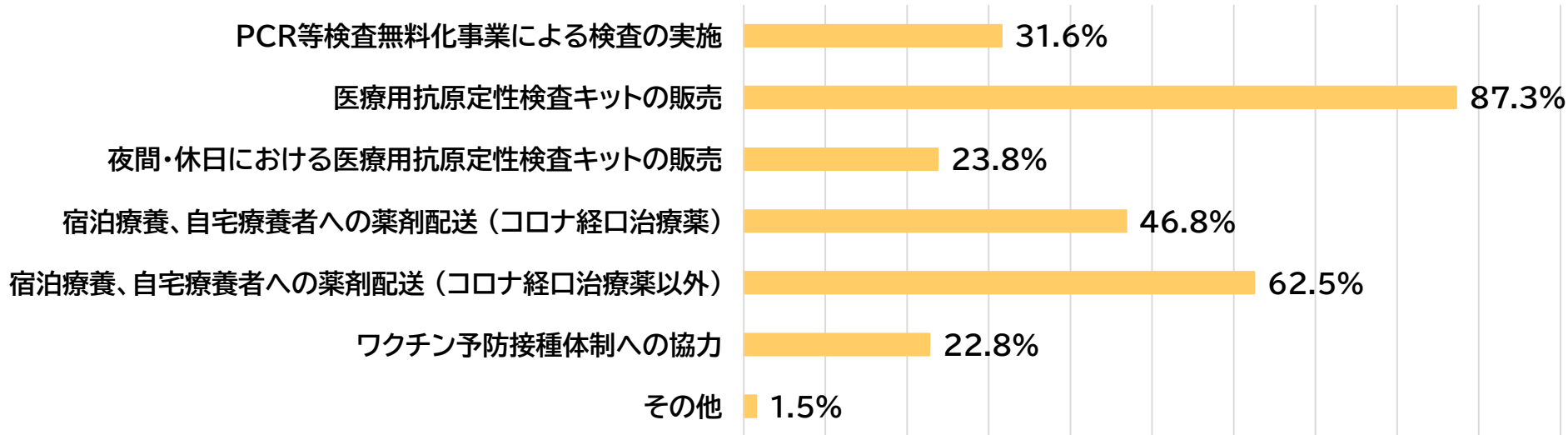
◆連携強化加算の算定状況



N=3548

◆連携強化加算について

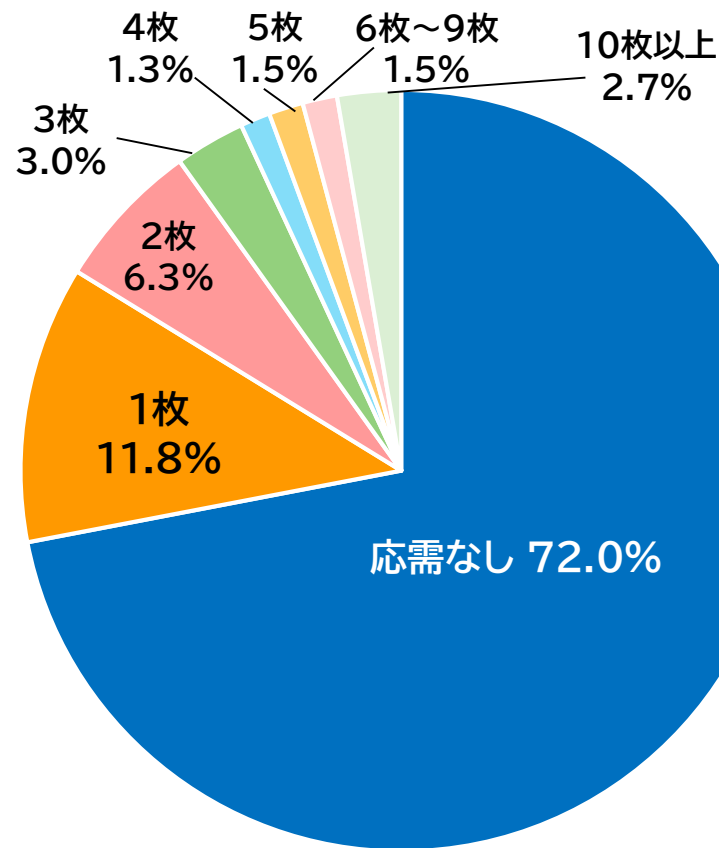
連携強化加算の算定有無に関わらずコロナ禍において実施する取組（複数回答可）（N=3492）



その他（フリーコメント）

- 門前病院の発熱外来患者への調剤対応・服薬指導
- 夜間・休日の発熱者の電話相談、対応受付、無料検査実施 無料抗原抗体検査キット配布事業対応
- 内科で陽性判定がされた患者をそのまま受け入れ投薬を行っている そのまま来局してしまうため
- 濃厚接触の患者への処方薬を玄関前まで配達 ●濃厚接触者による自宅待機している患者への定期薬の配達
- コロナ患者への服薬フォロー等 ●保健所での電話対応協力 ●コロナ検査の対応している近隣医療機関のご紹介
- ワクチン接種後の発熱対応問診表の記入アドバイスPCR検査キットの販売
- 体温計の設置、消毒液の設置、スタッフの手洗い、消毒、薬局の1日3回の消毒など

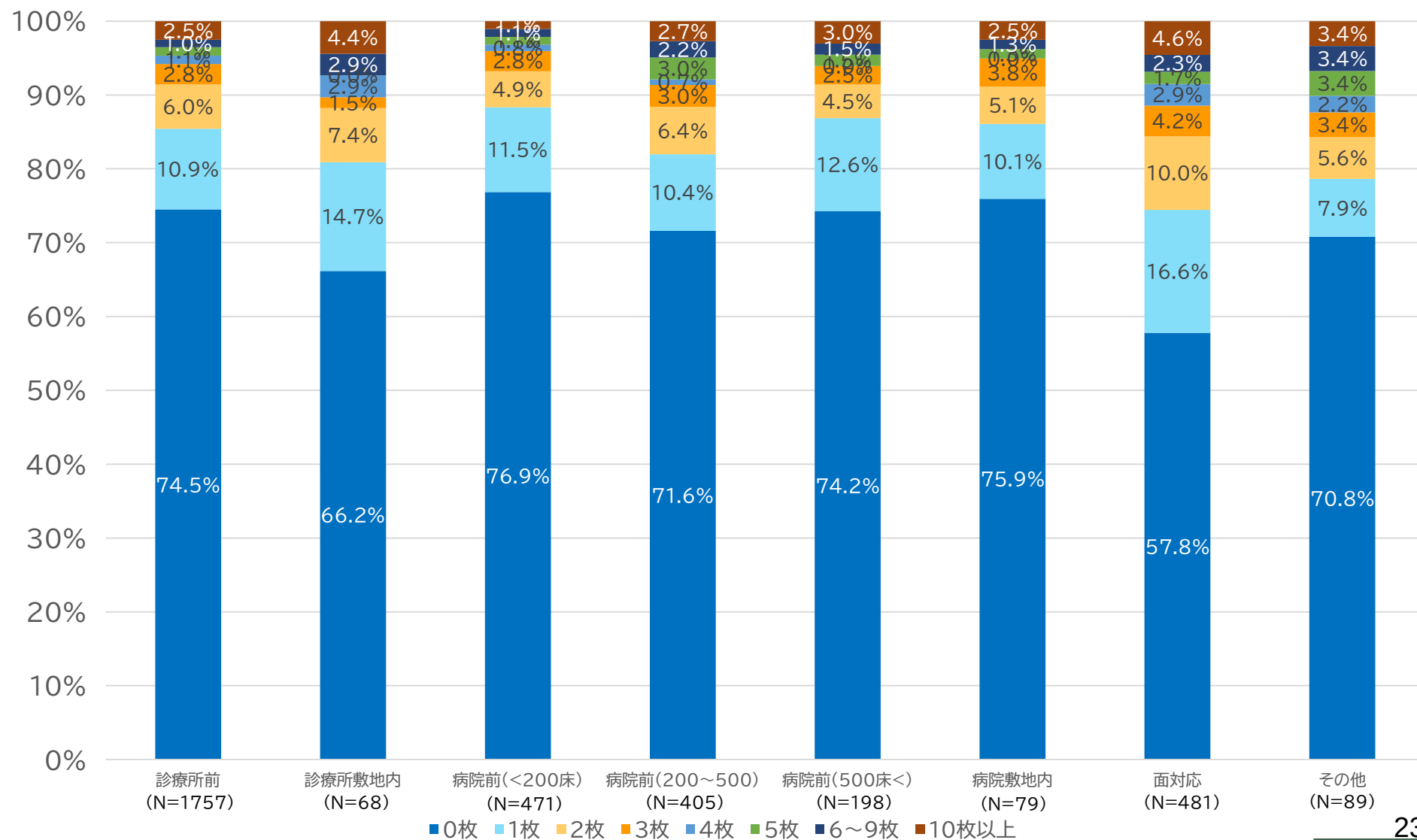
◆リフィル処方箋の応需枚数(4月～6月)



N=3548

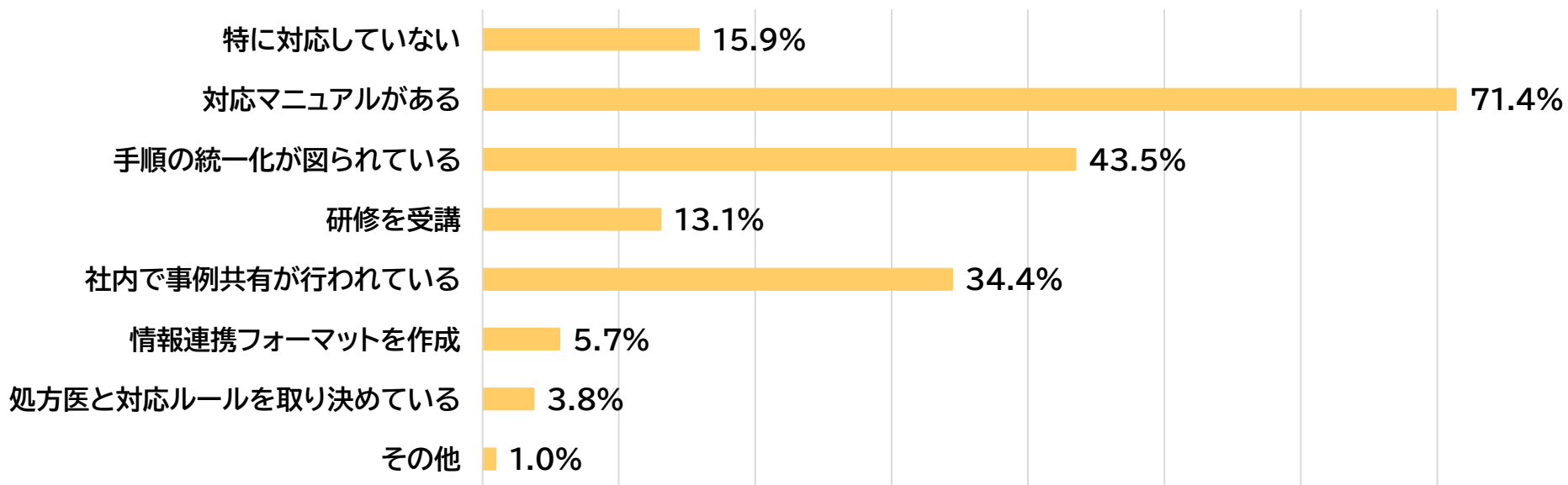
◆リフィル処方箋の応需枚数(4月～6月)×立地別

N=3548



◆リフィル処方箋の応需体制について

(複数回答可) (N=3504)



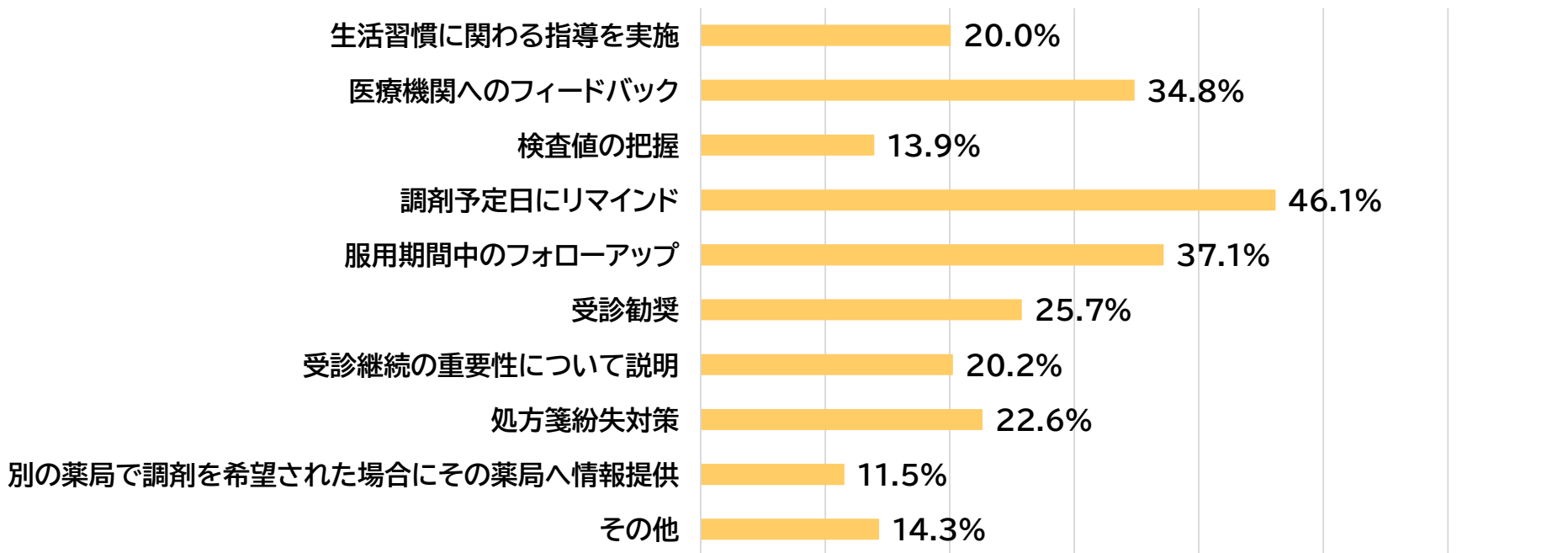
その他(フリーコメント)

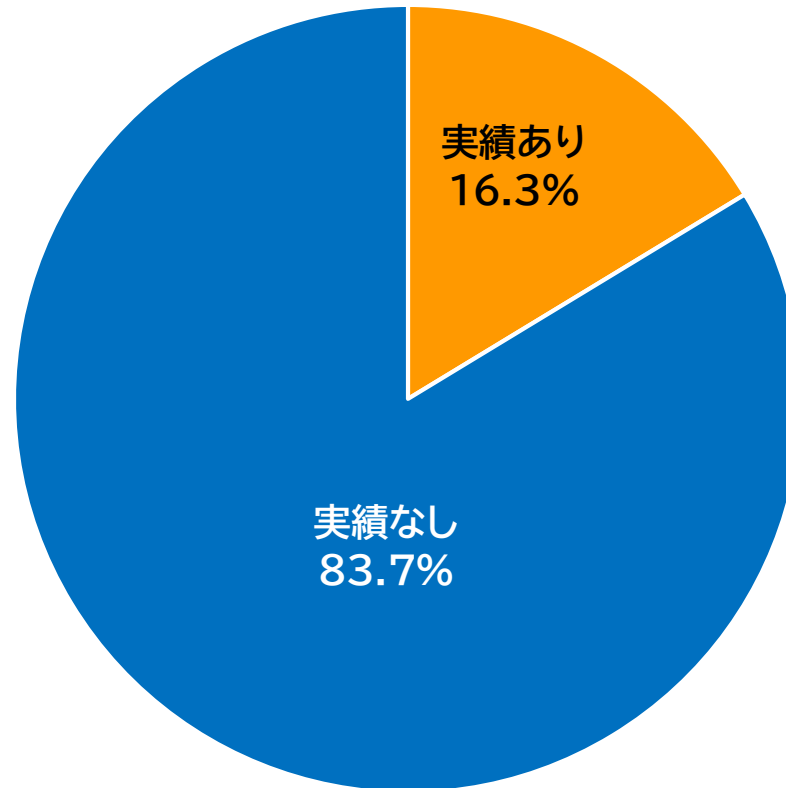
●宣伝用にポスター・のぼり等の設置、リーフレットの配布

●処方医にリフィル処方箋終了時に情報提供の文書で報告している

◆リフィル処方箋の応需にあたり実施していること

(複数回答可)(N=3013)

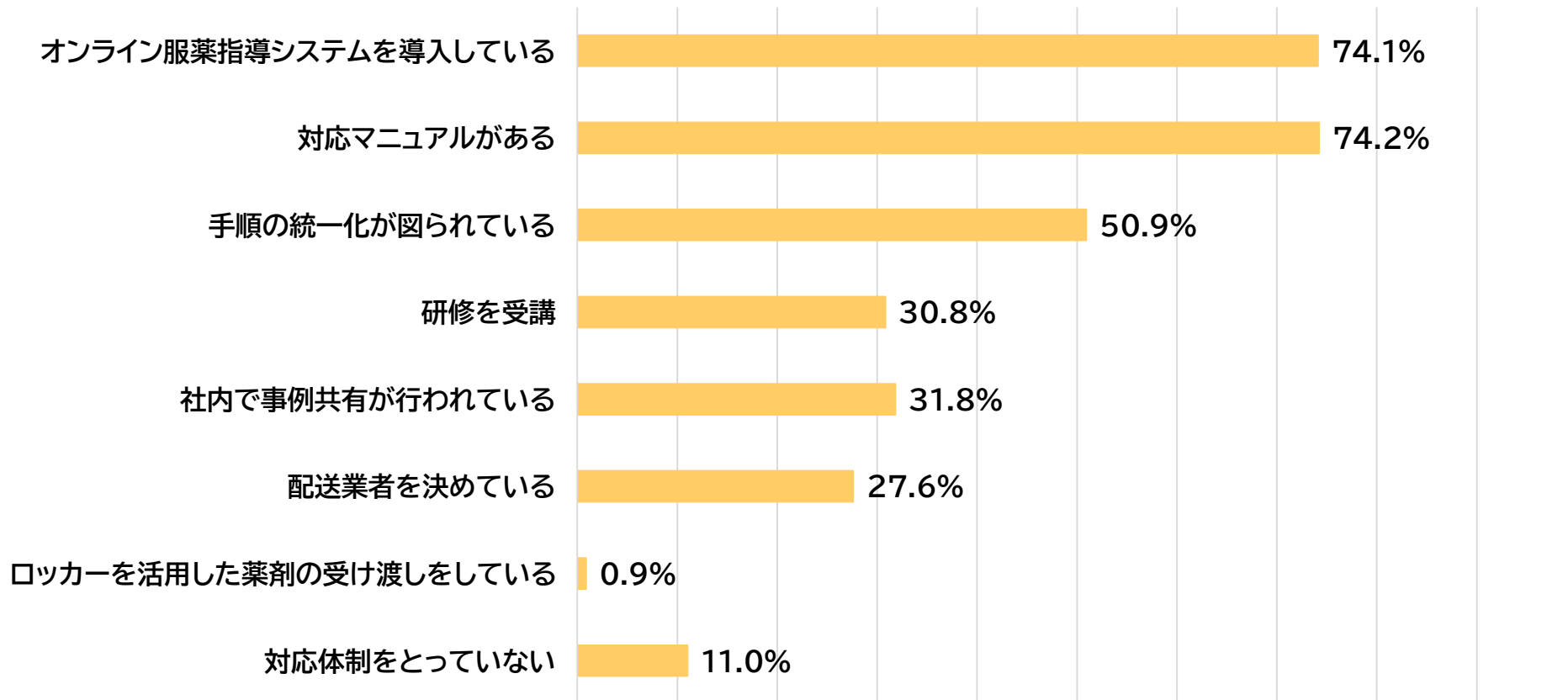




N=3548

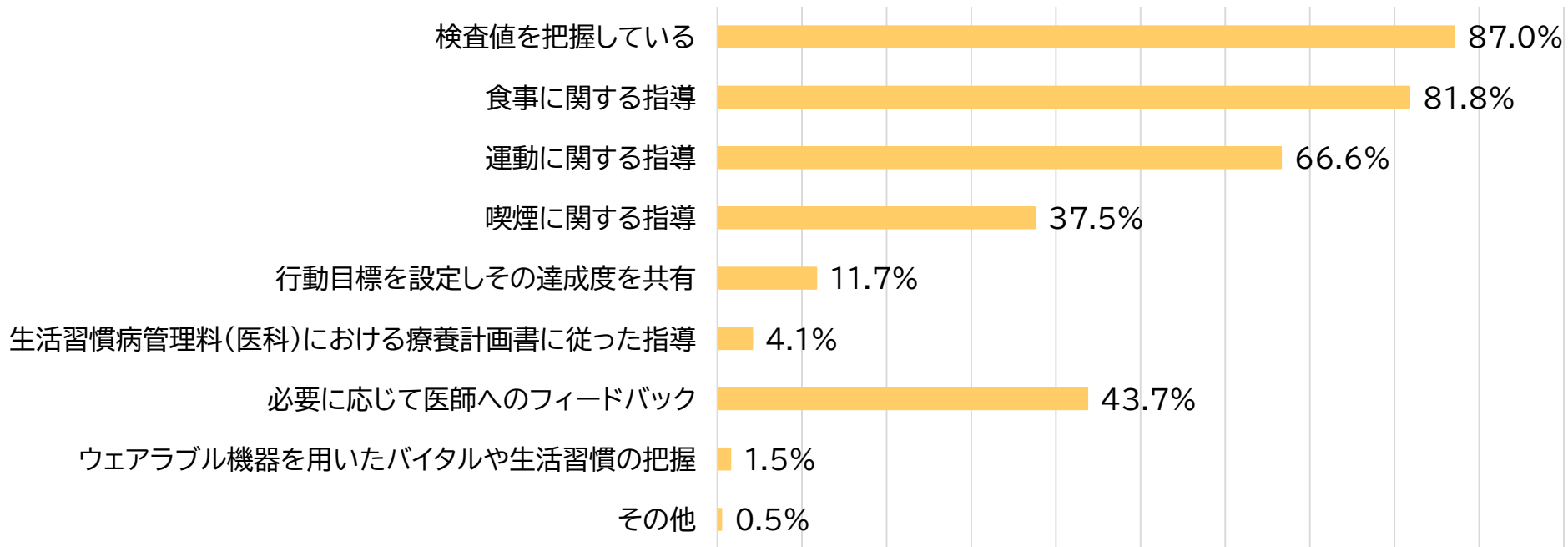
◆オンライン服薬指導の対応体制

(複数回答可) (N=3415)



◆生活習慣病患者に対する服薬管理指導で実施していること

(複数回答可) (N=3443)

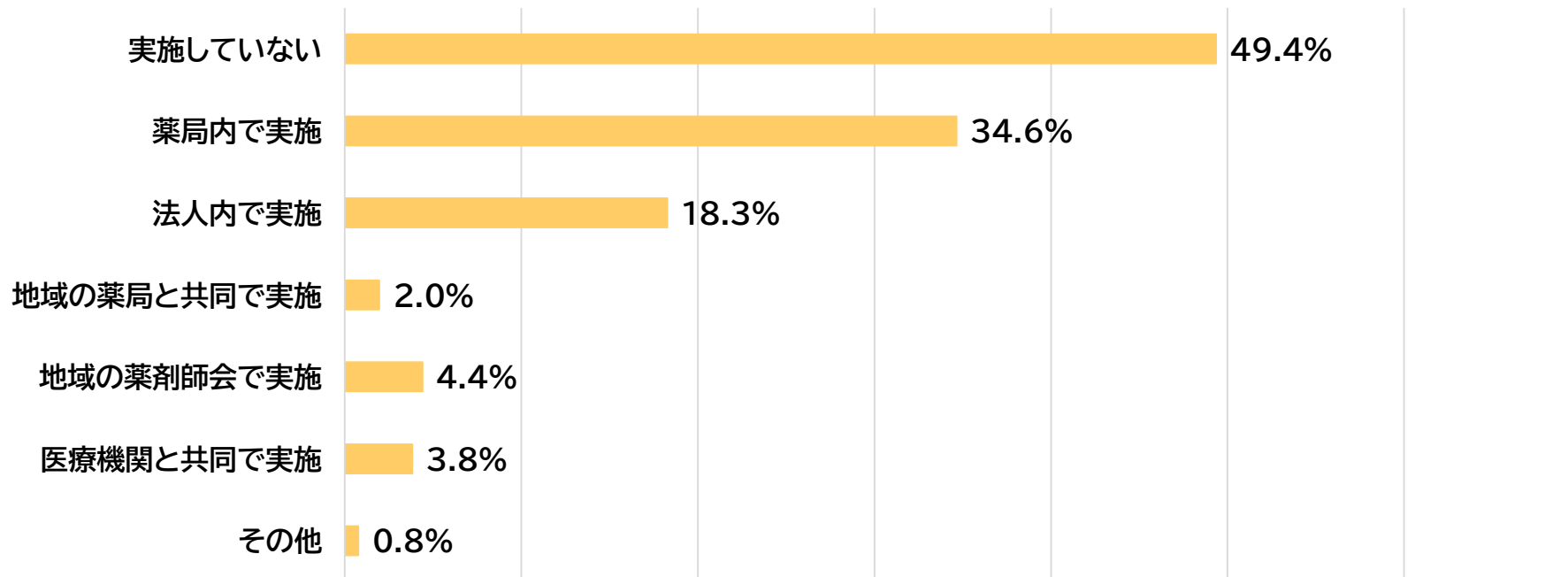


その他(フリーコメント)

- 疾患により最低チェック項目明確化し実施 副作用頻度高い時期にフィードバック
- Hpが血液検査データを患者に知らせている場合には数値の把握等実施するが、近隣Hpが血液検査データを患者に渡さない事もあり、全員の状態把握ができない
- コンプライアンスや体調を聴く程度
- 副作用の出現確認や体調の変化の確認
- 管理栄養士による栄養指導
- 健康食品などの紹介
- 管理栄養士による無料栄養相談(一部有料)
- 必要に応じて社内の栄養士と連携して栄養指導をしている

◆症例検討会の実施状況

(複数回答可) (N=3475)

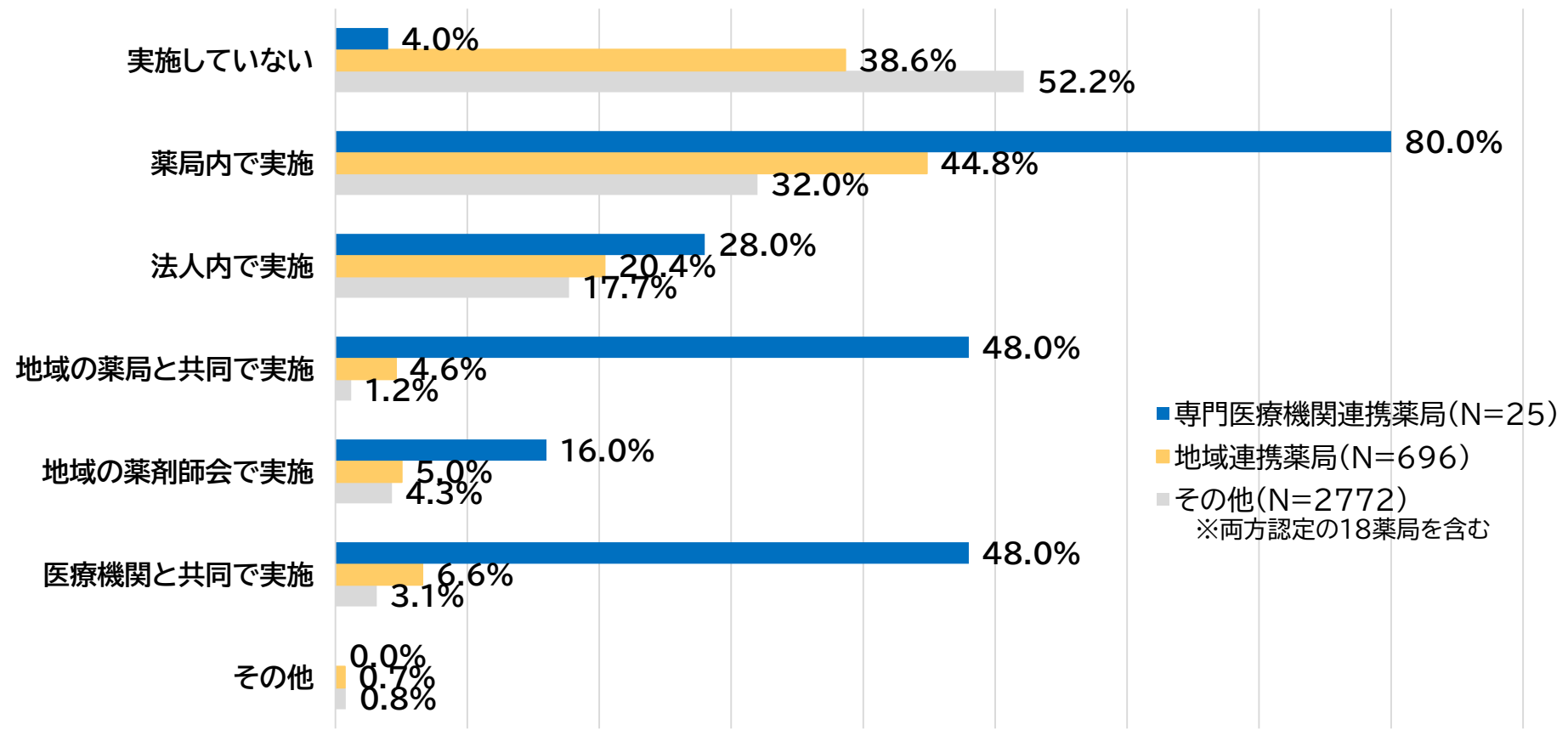


その他(フリーコメント)

- 地域包括支援センター主催には参加している
- 地域ケア会議で実施
- 地域で主催されているものに不定期で参加
- 大学が主催している症例検討会に参加している
- 月に1回大学教授をお招きし実施している
- 多種職で事例検討会を実施している
- 多職種連携会議に参加
- 市で実施している多職種の症例検討会に参加
- 在宅患者に対しての症例検討会は社内で実施
- 地域の介護事業所等が実施
- 介護施設と共同実施
- 在宅施設内で実施

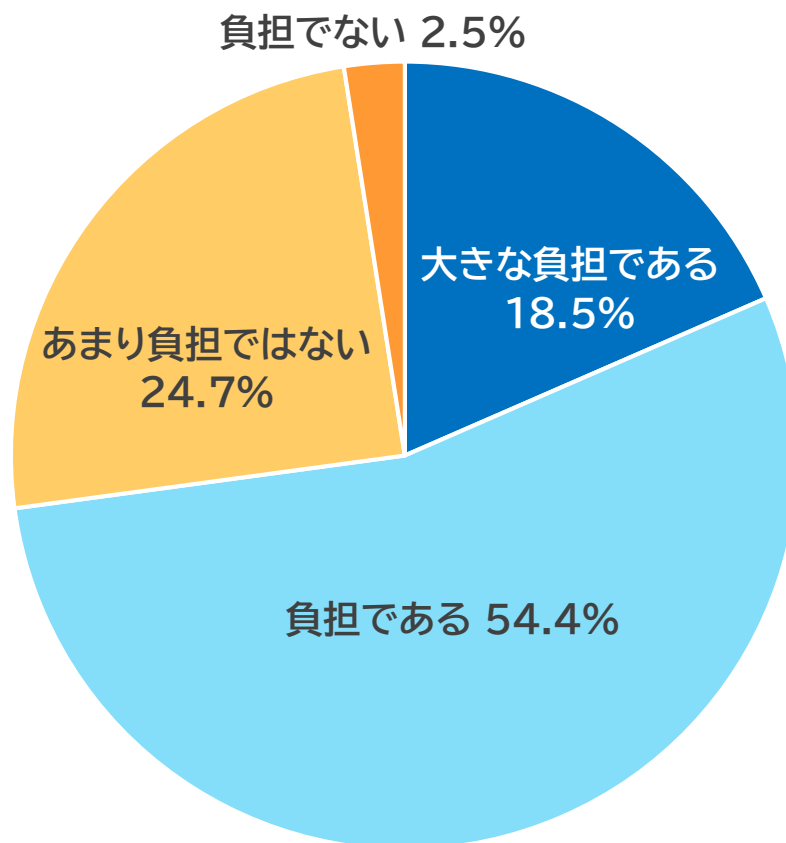
◆症例検討会の実施状況×認定薬局

(複数回答可) (N=3475)



専門医療機関連携薬局は、症例検討会の実施割合が顕著に高い結果となった。
 地域連携薬局においても、認定のない薬局と比較した場合に実施割合が高い結果となった。

◆薬歴記載業務の負担感について



N=3548

◆薬歴記載業務で負担に感じる点について

【個別指導の問題】

- 記載要件が多いことはもとより、厚生局の指導官によって指摘が異なっており、記載すべき正しい内容が統一されていない為、混乱が生じる。
- 加算要件を満たすための記載や個別指導対策としての記載内容が年々増加しており、記載に膨大な時間がかかる。
- 国の方針と個別指導をおこなう厚生局で基準が異なることが、対人業務をすすめる上で障壁になっていると思います。
- 全て薬歴に事細かに記載しなければ、算定要件を満たさないような指摘がある。患者がどのような表現で伝えたのか等。指導もどのような内容を実施したのかを事細かに書くように求められる。箇条書きレベルの要点で事がなされると感じます。
- 記載する要件が多い。指導管理して特に問題ない場合も、記載量が少ないと個別指導で指導してないと思われる。

【記載要件の問題】

- 今回の診療報酬改定により、細分化されたことで確認事項、記載事項が増えたと思います。対物業務から対人業務へシフトするためにはこのような事務処理も簡略化する必要があると思います。
- 記載すべき要件が多いため時間がかかる。
- 緊急訪問薬剤管理指導において記載する項目が多い。
- 記載要件が多い。特に在宅患者の記載要件が多すぎる。
- 記載しなければならないとされる事項が多くかえって確認漏れにつながっている。
- ハイリスクや乳幼児の加算をとるものについて、薬歴記載等の手間を考えると点数が低いように思います。
- ハイリスク薬の算定要件で全てのハイリスク薬について毎回触れる必要があること。
- 記載する要件が多い。薬剤師1人あたり、処方箋40枚まで対応可能という指標に疑問を感じる。
- 求められる薬歴の質があまりにも高すぎて、「薬歴作成＞患者様対応」となる時がある。また薬剤師が薬歴で疲弊してしまっているのは周知の事実で(薬歴残業)、薬剤師が職能を十分に発揮するのに本当に現在の細かい薬歴が必要なのか疑問に思う。

◆薬歴記載業務で負担に感じる点

Q. 薬歴記載業務で負担に感じる点について

【患者情報の取得】

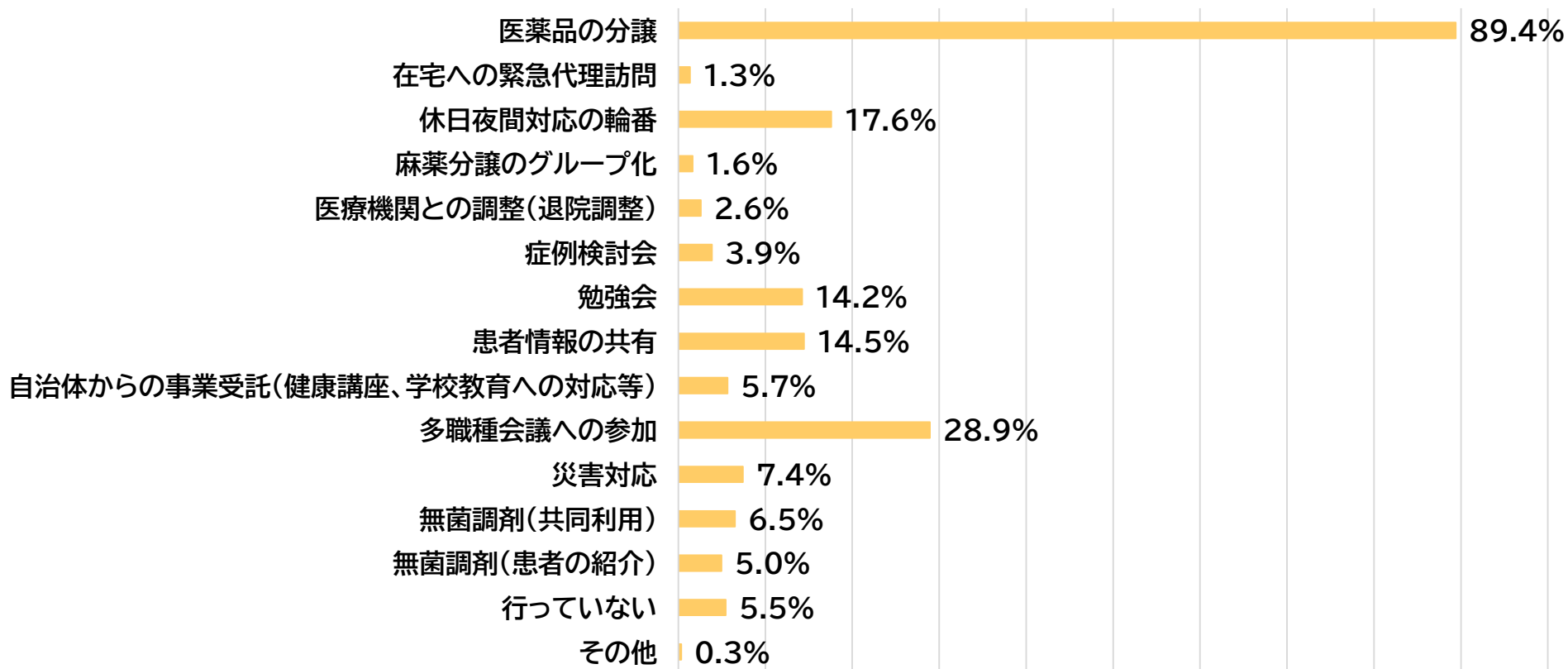
- 検査値など必要な情報をすばやく確認できるようにしてほしい。
- 患者が病名を知らない場合もあるので、医療機関側から病名などの情報がもらえるようにしていただきたい。
- マイナンバーなどでわかることは自動で入力されていると助かります。
- 情報開示しない患者の対処に困る。病院に比べて、薬局の扱いが悪く、薬を貰う場所としか認識していない患者も多いため、薬歴に記載すべき事項の聴取が困難な事もある。

【その他】

- 居宅管理報告書と薬歴と記録内容が重複しており、両方の記載業務が負担である。
- 薬歴の内容部分だけでなく、表紙部分にも同じ内容を書かなければならなかったり、記載項目が多い。お薬手帳の持参の有無を毎回書かなければならないのが負担。処方内容部分に算定内容の記載もあるので、それで良いとしてもらいたい。毎回薬歴にも書かなければならないのは無意味。
- 患者からの情報聞き取りできることがおおく、全て記入するのは困難。その精査等。それに加えて重要ではないのにごく細かい決まり上記載必要な文言等が多い。
- 問題のない患者の薬歴は問題なしとだけ記載(SOAPもなし)し、問題のある患者の薬歴を充実させるべきではないかと考える。
- 記載に時間がかかる事、別途トレーシングレポート作成ではさらに時間がかかる事。

◆法人が異なる地域薬局と行っている連携

(複数回答可) (N=3485)

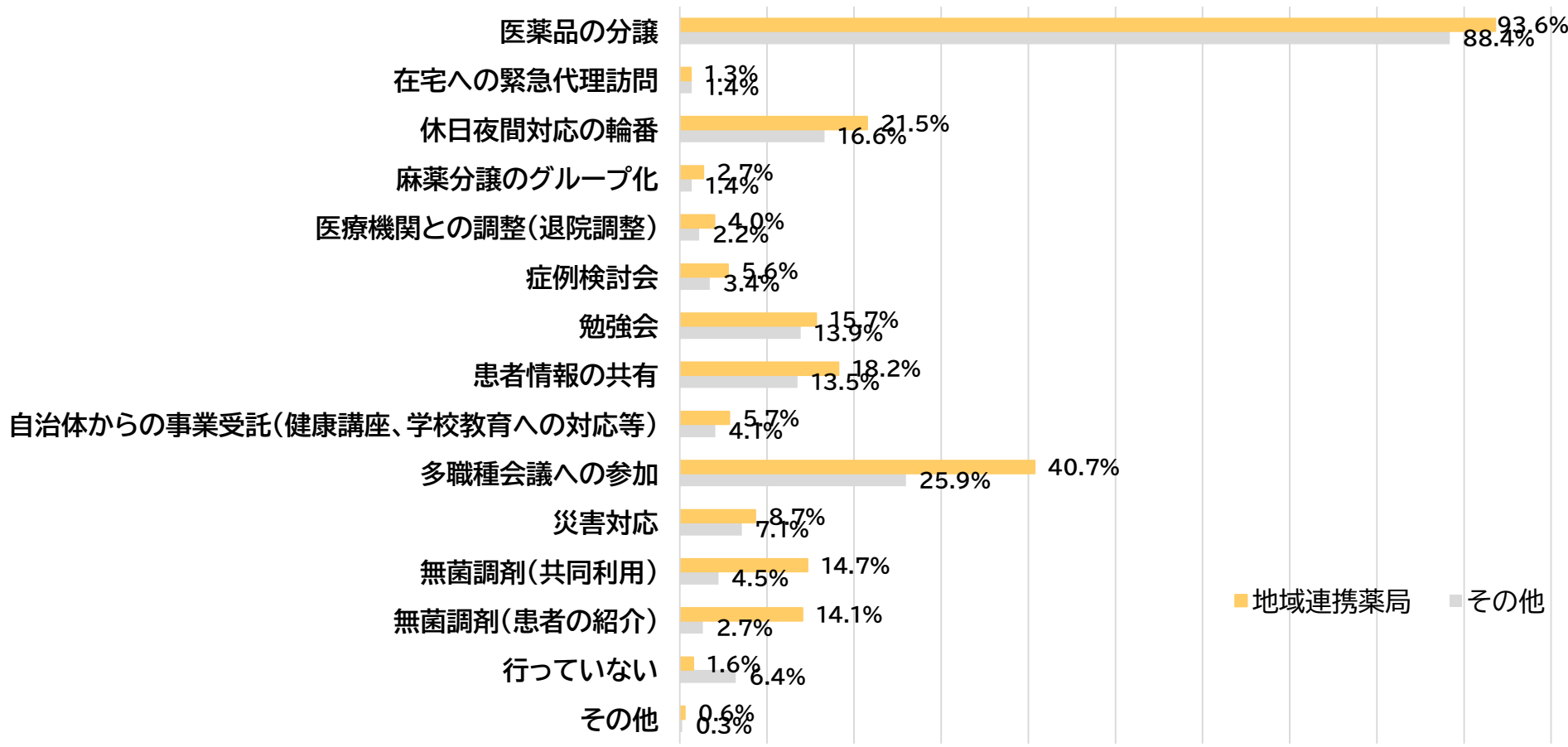


その他(フリーコメント)

- 薬-薬連携会議による門前薬局との情報共有
- 応需先薬剤部と近隣薬局との連携会議
- 患者様のご紹介など
- 新型コロナワクチンの調整・分注事業
- ワクチン接種協力
- COV休日対応の輪番

◆地域連携薬局×法人が異なる地域薬局との連携

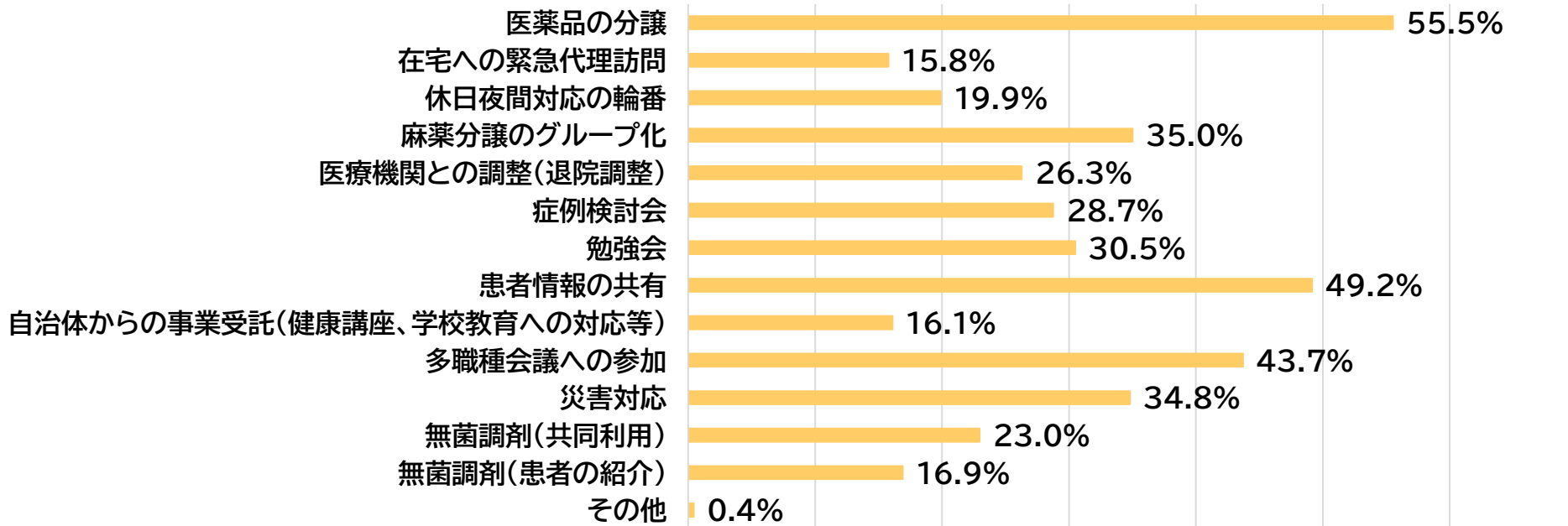
(複数回答可) (N=3485)



地域連携薬局では、法人が異なる地域薬局との連携割合が高い傾向があった。
特に、多職種会議への参加や無菌調剤といった項目で大きな差がみられた。

◆法人が異なる地域薬局とどのような連携ができればいいか

(複数回答可) (N=3454)

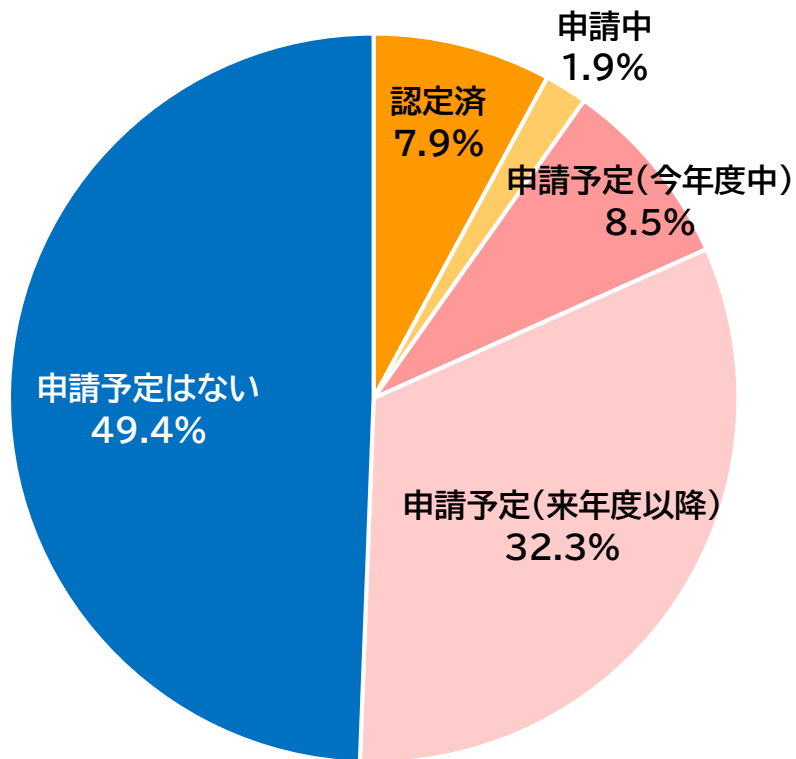


その他(フリーコメント)

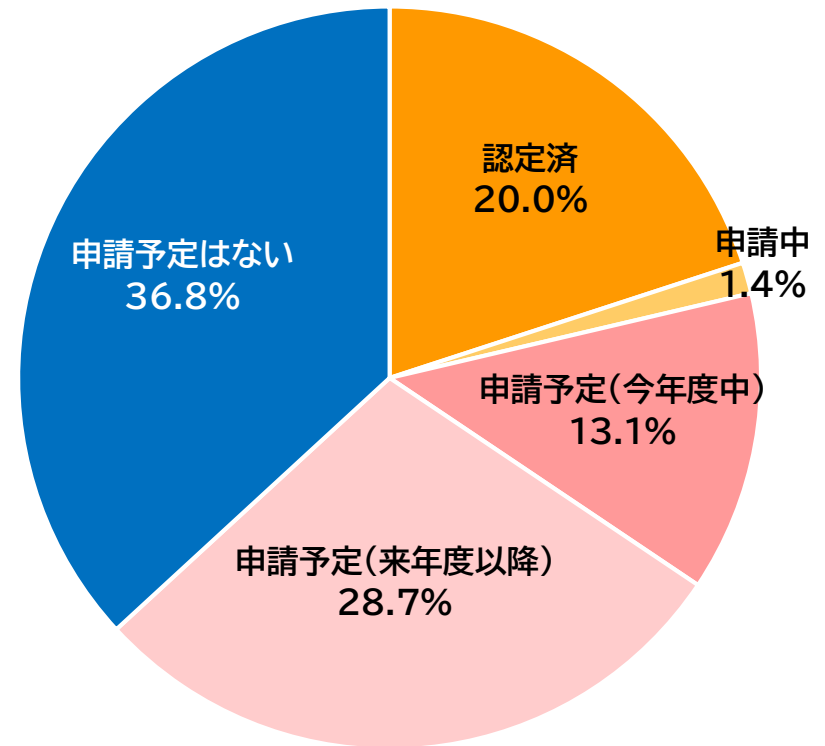
- 門前の特色について情報共有
- クリニックの門前薬局から処方医の性格や処方傾向、約束処方などの情報を共有できると日常業務がスムーズになると思います
- 後発品医薬品の情報共有
- 地域包括ケアへの取り組みの充実(健康サポートイベントの共同開催)
- 災害対応連携のための、災害訓練

◆地域連携薬局の認定取得状況について

2022年1月調査(N=4787)

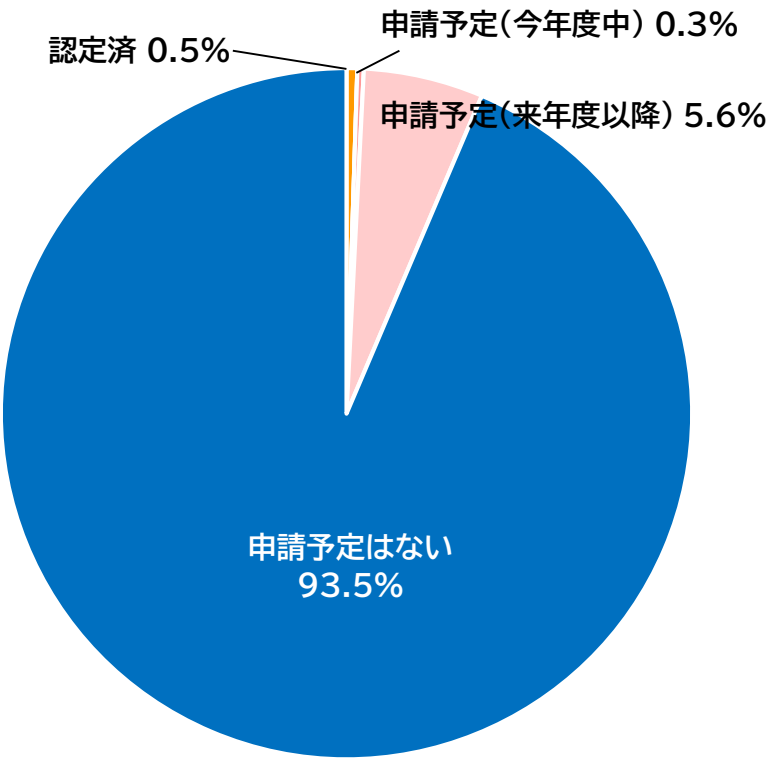


2022年8月調査(N=3548)

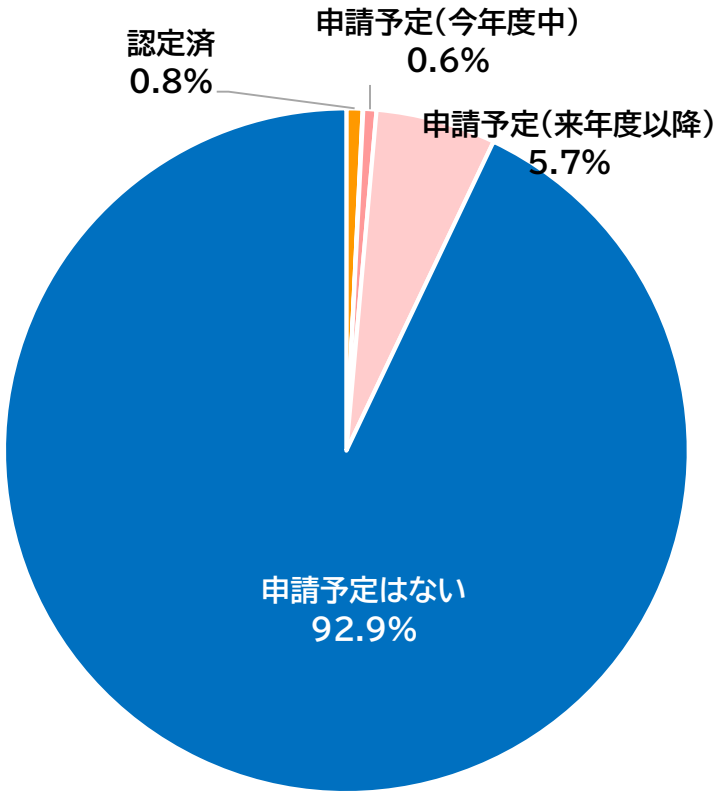


◆専門医療機関連携薬局の認定取得状況について

2022年1月調査(N=4787)

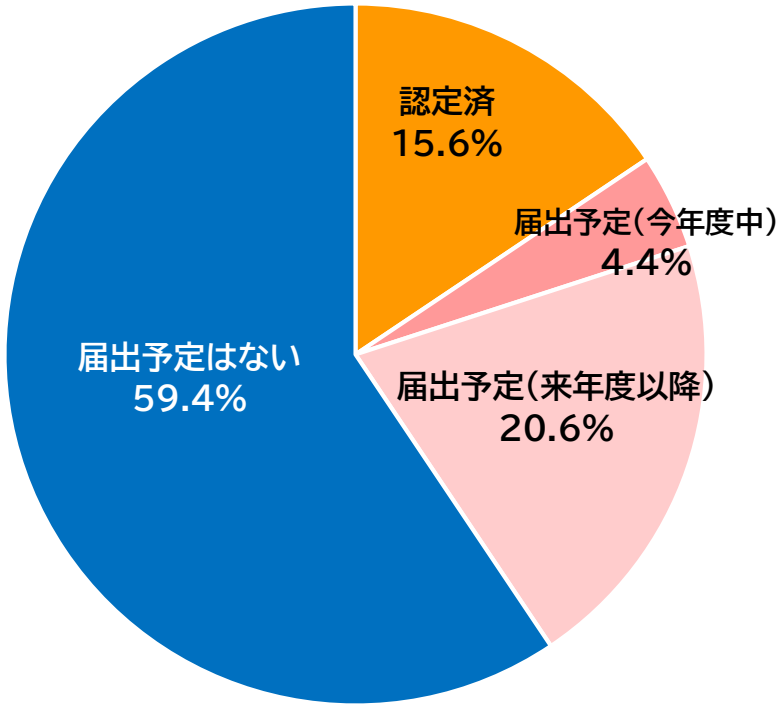


2022年8月調査(N=3548)

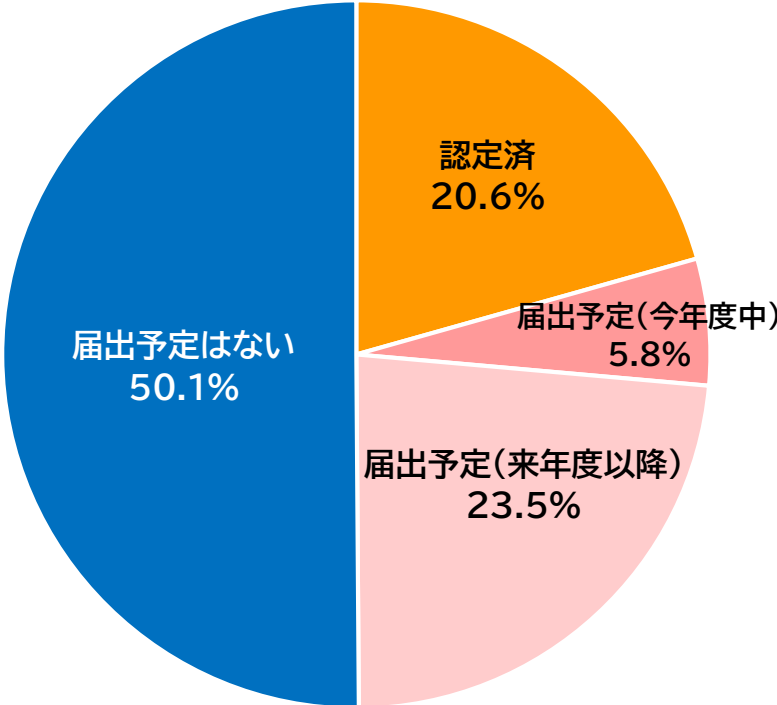


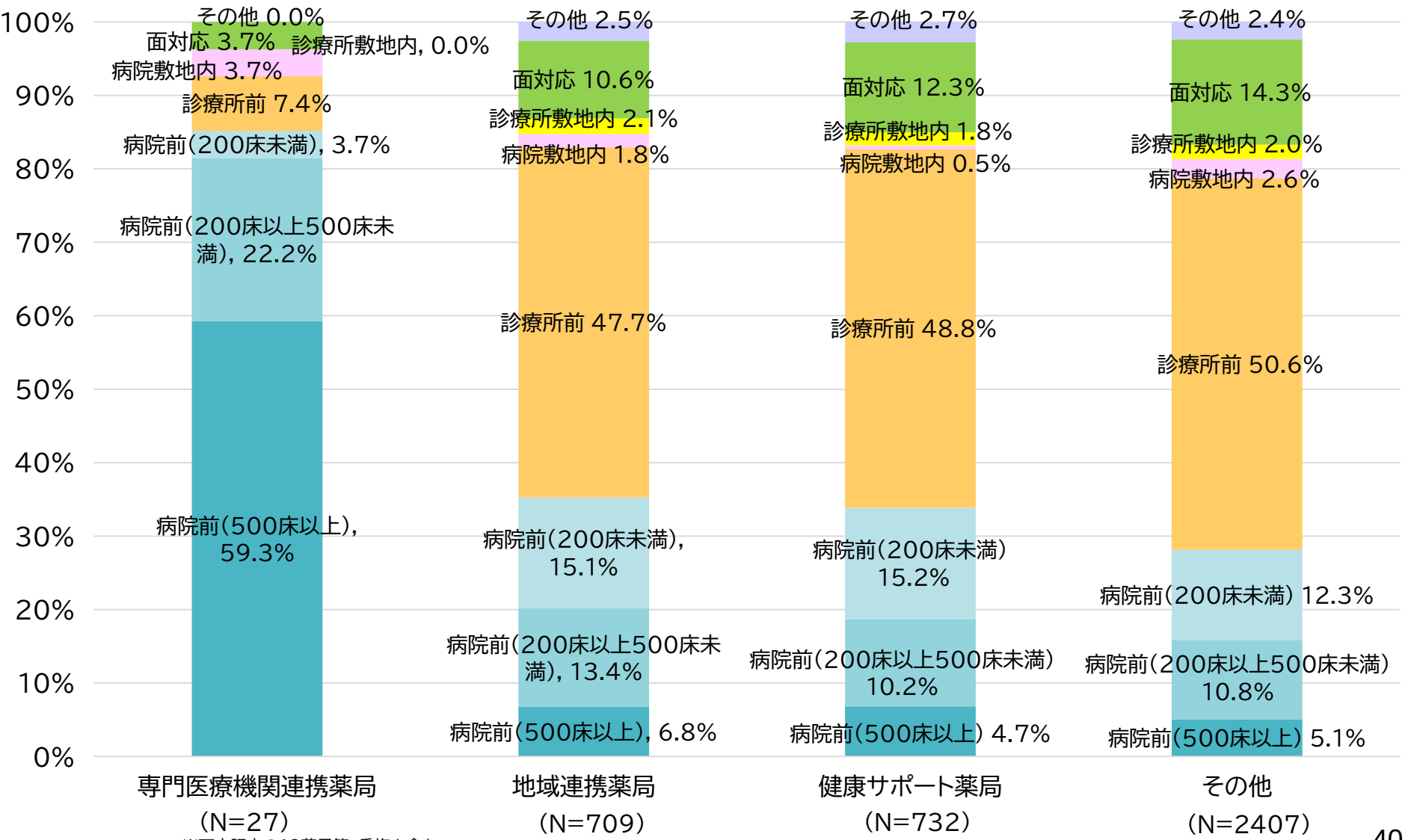
◆健康サポート薬局の認定取得状況について

2022年1月調査(N=4787)



2022年8月調査(N=3548)





※両方認定の18薬局等、重複を含む